

<令和2年度>

鳥取県文化芸術事業

# 評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

# ～ 目 次 ～

|  |    |
|--|----|
| 1 総合評価   | 1  |
| 2 実施結果概要   |    |
| (1) 実施事業一覧                                       | 2  |
| (2) 評価の体系  | 2  |
| 3 事業別評価  |    |
| (1) 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2020 東部地区事業（東部地区企画運営委員会） | 3  |
| (2) 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2020 中部地区事業（中部地区企画運営委員会） | 7  |
| (3) 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2020 西部地区事業（西部地区企画運営委員会） | 12 |
| (4) 第11回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）            | 18 |
| (5) 第64回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）               | 22 |
| (6) 第2回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会（鳥取県地域づくり推進部文化政策課）     | 26 |
| (7) 第6回合同公演ミュージカル「オズの魔法使い」（鳥取県ミュージカル連盟）          | 30 |
| <br>(参考)   |    |
| ・鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿                             | 34 |
| ・鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告書執筆担当一覧                   | 35 |
| ・鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況                       | 36 |
| ・鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱                              | 37 |

(別冊) 令和2年度 鳥取県文化芸術事業 評価報告書《資料編》

# 1 総合評価

## 【本年度の評価方法】

鳥取県のコロナ対策指針に従い、安全・安心を確保した上での文化芸術事業の評価を、事業実施者の策定した行動計画について、その達成度を判断する。評価の段階は「達成」「概ね達成」「一部達成」「未達成」の4段階。それぞれ3点、2点、1点、0点と数値化し、達成度を確定する。

また、その事業の総括を行い、「成果」「課題」「その他事業に関する意見、感想」を作成し、事業全体像を評価委の視点で表す。

## 【本年度の事業評価】

- ・とりアート東、中、西部の地区事業（3事業）

「とりアート」は鳥取県下3地区でそれぞれ独立した文化芸術事業を実施された。それぞれの地域の特徴をよくつかみ、アートに親しむ環境作りに汗をかかれたことに感動を覚える。コロナ禍という困難と闘いながらも、文化芸術の火を絶やさないと意気込みに来年度への希望を持つことが出来た。

また、とりアートの存在意義が昨今叫ばれる中で、コロナ禍という逆風に立ち向かった結果、新しい「とりアート」のイメージが出来上がったのではなかろうか。

- ・鳥取県文化政策課主催事業（とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会）

「とっとり伝統芸能まつり」は、リモート開催で行われ、新しいイベント方式の幕開けとなったのではなかろうか。カメラアングル等技術が向上すれば、会場に足を運べない方でも映像で楽しめる。新しい選択肢が出来た。

「鳥取県美術展覧会」は従来とおりの開催だった。優秀作品を来場者が選ぶイベントは人気であった。関心を深めるイベントとして定着して欲しい。また、芸術作品の質を問う議論が評価委員の間でなされたが、「質」という非常にデリケートな概念にふれあい、考えるということも、アートに親しむ原点ではなかろうか。

私の個人的な感想だが、日本画部門で県展賞を受賞した賀川英広さんの「不動院岩屋堂」はおおいに感動した。

「万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会」はリモートで開催された。これから伸びる事業である。また、若い世代に文化芸術を親しんでもらうにもってこいの事業だと感じた。県下の高校すべての参加を期待したい。

- ・鳥取県文化団体連合会主催事業の基本型モデル事業（鳥取県ミュージカル連盟主催事業）

鳥取県ミュージカル連盟主催事業「オズの魔法使い」は、コロナ対策にやや不安を呈していたが、若手を団長の役に任命し、団員の活性化を図り、チケットが売り切れるという盛況ぶりだった。また、出演者の情熱が演技にも表れていた。（老婆心ながらコロナ対策を万全にと記しておく。）

## 【今後の評価に向けて】

令和3年度も同様な評価方法で、評価活動を行う。事業者と評価者とは目標は同じでも、立ち位置が違う。それを理解していただきながら、鳥取県の文化芸術事業を盛り上げていきたい。文化芸術は「感動」であり「喜び」そのものだから、立場が違っても分かり合えるはずである。神輿に乗る人、担ぐ人、それを見る人、祭りとは持ち場持ち場で情熱が必要だと平日頃から感じている。

また、評価対象事業も令和2年度とほぼ同じ事業を評価していく意向である。

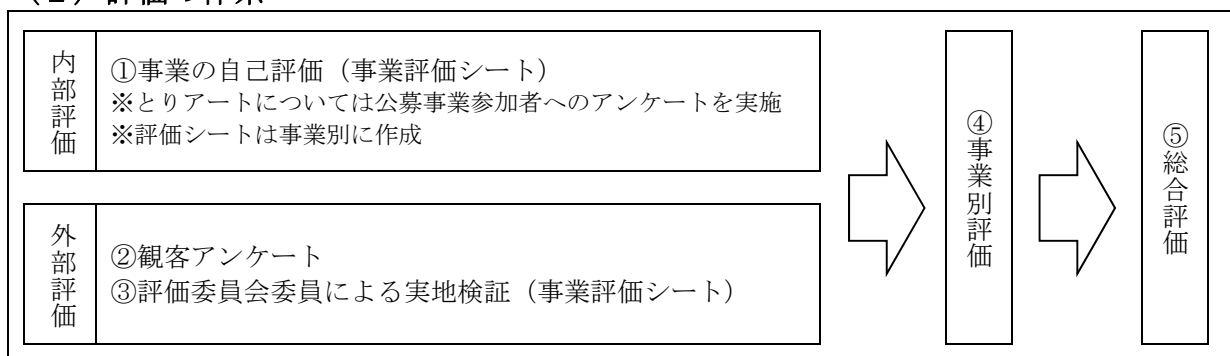
令和3年4月  
鳥取県文化芸術事業評価委員会  
会長 南家 久光

## 2 事業実施概要

### (1) 実施事業一覧

| 番号 | 主体                     | 団体名                      | 事業名                             | 実施日                          | 実績                             |                  |          |          |        |       |
|----|------------------------|--------------------------|---------------------------------|------------------------------|--------------------------------|------------------|----------|----------|--------|-------|
|    |                        |                          |                                 |                              | 入場者数                           | アンケート配布数         | アンケート回収数 | アンケート回収率 | 満足度    |       |
| 1  | 鳥取県総合芸術文化祭実行委員会        | 東部地区企画運営委員会              | 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート 2020東部地区事業 | 令和2年<br>11月28日(土)<br>～29日(日) | 1,800人                         | 786枚             | 348枚     | 44.3%    | 92.8%  |       |
| 2  |                        | 中部地区企画運営委員会              | 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート 2020中部地区事業 | 令和2年<br>11月7日(土)<br>～8日(日)   | 延べ<br>1,572人                   | 950枚             | 439枚     | 46.2%    | 93.2%  |       |
| 3  |                        | 西部地区企画運営委員会              | 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート 2020西部地区事業 | PART1                        | 令和2年<br>12月5日(土)<br>～9日(水)     | 延べ<br>1,615人     | 162枚     | 132枚     | 81.4%  | 87.9% |
|    |                        |                          |                                 | PART2                        | 令和3年<br>2月23日(火)               | 35人              | 35枚      | 35枚      | 100.0% | 97.1% |
|    |                        |                          |                                 | PART3                        | 令和3年<br>3月5日(金)<br>～9日(火)      | 1,404人           | 1,092枚   | 712枚     | 65.2%  | 98.2% |
| 4  |                        | 鳥取県<br>地域づくり推進部<br>文化政策課 | 第11回とっとり伝統芸能まつり<br>(無観客ライブ配信)   | 令和2年<br>8月29日(土)             | (視聴者数)<br>1,602件               | (配信件数)<br>1,602件 | 29件      | 1.8%     | 96.6%  |       |
| 5  |                        |                          |                                 | 第64回鳥取県美術展覧会                 | 令和2年<br>9月19日(土)<br>～11月23日(月) | 8,965人           | 8,965枚   | 4,135枚   | 46.1%  | 96.4% |
| 6  | 第2回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会 |                          |                                 | 令和2年<br>12月13日(日)            | 10人                            | 10枚              | 5枚       | 50.0%    | 80.0%  |       |
| 7  | 鳥取県文化団体連合会             | 鳥取県ミュージカル連盟              | 第6回合同公演<br>ミュージカル「オズの魔法使い」      | 令和2年<br>12月20日(日)            | 1,086人                         | 1,086枚           | 799枚     | 73.6%    | 99.5%  |       |

### (2) 評価の体系



### 3 事業別評価

(1) 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2020 東部地区事業(東部地区企画運営委員会)  
令和2年11月28日(土)、29日(日) とりぎん文化会館

【文化芸術事業評価シート】

| 目的               | 自己評価                            |  |  | 評価委員による評価  |
|------------------|---------------------------------|--|--|--|
|                  | 取組目標                            | 行動計画   | 達成度及び評価理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | 誰もがアートに気軽に親しむことができる機会の提供(環境づくり) | <p>コロナ禍にあっても「県内の文化芸術活動の灯を消さない」という想いのもと、感染対策を施し、来場者、出演者及びスタッフが安心・安全に参加できるイベントとする。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>会館の各入口にて全来場者の検温、連絡先の記入等の対策をとった。<br/>また、食ブースに透明シートを設置、飲食スペースでは対面にならないよう机一列に配置して仕切りを設け、ワークショップではフェイスガードや手袋を使用し適宜消毒を行った。<br/>さらに出演者・スタッフにも2週間前からの検温・体調管理などの関係ガイドラインに基づいた予防対策を講じ、安心安全なイベントとなるように取り組んだ。</p>   | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>会館各入口での検温、連絡先記入が行われ、スタッフの対応も和やかであった。<br/>ステージ発表とステージ以外の場所で実施されたワークショップは、一度に両方が重ならないように時間設定され、細部までコロナ対策を意識された対応であった。<br/>食ブースに透明シートを設置、飲食スペースでは対面にならないよう机一列に配置して仕切りを設け、ワークショップではフェイスガードや手袋を使用し適宜消毒を行っていた。</p>   |
|                  |                                 | <p>社会的距離を保ちながら、主な企画を1階に集約し、来場者がアートに気軽に触れることのできる空間を創出する。</p>                          | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>ワークショップがメインの1日目は食、展示を含む各ブースで社会的距離を保ちながら気軽にアートに触れていたことができた。<br/>また、すべての企画を1階に設けることで、当初の来場目的ではなかったブースにも自然と足を運んでいただくことができた。</p> <p>【課題】<br/>ステージイベントがメインの2日目は予想以上の来場者があり、一時的に密な状態となる場面があった。併せて食の販売ブースでも同様の場面も見受けられた。<br/>来場者のマスク着用と手指消毒を徹底し、適宜社会的距離をとるようアナウンスを行ったが、今後は社会的距離を保つ仕組みづくりが必要である。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>1日目はワークショップを2日目はステージイベントを中心とし、日程を割り振ったことで、入場者が社会的距離を保ち企画を楽しむことができた。<br/>作品展「あいサポート展」は多目的ホールの中を全部使い、広々とした空間で観覧することができた。</p> <p>【課題】<br/>2日目は食の販売ブースには多くの来場者があり、一時的に密な状態となる場面があった。<br/>会場アナウンスによる注意喚起が再々行われていたが、出入りする来場者に徹底する事は難しいと感じた。<br/>予想外に多人数の来場者への対応は難しい課題だ。人数制限の必要性も想定しておく必要がある。</p> |

|                         |                         |  |  |  |
|-------------------------|-------------------------|--|--|--|
|                         |                         | <p>時間的、空間的な余裕を持たせながら、より多くの方に楽しんでもらえるよう、様々なジャンルの企画を準備する。</p>                | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>ワークショップとステージの日程を分けたことで時間的・空間的に余裕のある設定ができた。</p> <p>また、今回はすべて自主企画として、出演、出展者を委員会を選定し、企画数は例年より少ないながらもバラエティに富みつつバランスの取れた質の高い内容を提供できた。</p> <p>さらに、余裕のある設定にしたことで、アートひとつひとつに目を向けることができるレイアウト・タイムテーブルとなり、見る側見せる側双方にとってじっくりアートを楽しんでいただける良い相乗効果が生まれた。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>1日目は悪天候で来場者が少ない反面、来場者はゆったりと、アートに触れることが出来た。</p> <p>ステージ発表は昨年の半数程度となったが、様々なジャンルが準備され、充実したものになっていた。企画数や、催し毎のタイムテーブルの間隔はちょうど良く、盛り上がりの中で無理なく鑑賞することができた。</p> <p>作品展示も新しい企画を盛り込み、全体の構成を豊かにする取組みがなされていた。</p> |
|                         |                         | <p>障がい者福祉サービス事業所等との連携により、障がいのあるなしに関わらず誰もが文化芸術を楽しみ、感動を共有できる場を提供する。</p>      | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>今年も障がい者福祉サービス事業所などと連携し、あいサポート展を実施した。同会場内で「さわれる木のおもちゃ」の展示も行い、小さな子どもからご年配の方まで、幅広い年齢層の方々にご覧いただくことができた。</p> <p>さらに、展示期間を延長したことで、出展関係者の方々をはじめ、偶然立ち寄られた方等にもゆっくりとご覧いただくことができた。</p> <p>また、ゆとりを持った会場づくりを行うことで、障がいがあっても回遊しやすいようにした。</p>                  | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>ゆったりとしたスペースで、子供達は喜んで木のおもちゃに熱中していた。こうしたイベントの中で、子供達が退屈せずに居場所にできるスペースがあることは非常に重要である。</p> <p>「あいサポート展」は、今回参加するNPO法人が一つ増え、とりアートの一翼として着実な歩みを感じられる。</p>   |
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 若年層、実施者等の育成及びその活用（人材育成） | <p>地域や教育機関と連携し、鳥取の文化芸術を担う若年層の出演・参加・来場を促進するとともに、専門家が関わることにより、出演者の育成を図る。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>鳥取工業高校の自動演奏機械の出展、日舞や和楽器の団体の出演など、若者の活躍する場を多く提供した。</p> <p>中でも10代の若者だけで構成した「鳥取の星コンサート」は、地元の小学生から高校生の実力者をフィーチャーし、プロの演出を施した楽曲やステージングを披露。素晴らしいコンサートとなった。</p> <p>発表会しか経験していない子どもたちにとって「コンサートをする」という貴重な経験の場を創出した。</p>                                  | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>「鳥取の星コンサート」は、出演者が才能豊かな小学校高学年から高校生で、多彩なプログラムにより観客を魅了した。</p> <p>県内高校生の自動演奏機械の出展、日舞や和楽器の団体の出演など、若者の活躍する場を提供した。</p>  |

|                  |                      |  |  |  |
|------------------|----------------------|--|--|--|
|                  |                      | 実施者にとってとりアートでの感染防止対策等の経験がその後の新しい生活様式に則した活動に活かされるように、感染症対策を共有、徹底する。 | 達成度：達成<br>【成果】<br>出演者、出展者に感染防止対策を徹底し、文化活動を行う中でも安全を確保する方法を共有するとともに、一つのイベントのあり方の方向性について示すことができた。<br>また、企画の実施者のみならず、来場者も新しい生活様式に則したイベントを体験する機会となった。                       | 達成度：達成<br>【成果】<br>参加者への感染防止の意識付けや共有がなされ、観客席の椅子の配置やイートスペースのレイアウト等についても配慮があり、概ね安心してイベントに参加・鑑賞することができた。<br>「鳥取の星コンサート」でも会場の中が一杯にならないよう工夫しており、終演の後、出口への観客誘導はよく配慮が成されていた。来場者もこの新しい体験をした。  |
| 「アート」で元気に～地域づくり～ | アートによる地域の活性化（地域との連携） | 郷土芸能・文化に触れる機会を提供し、地域の魅力を再発見するきっかけをつくる。                             | 達成度：達成<br>【成果】<br>いわゆる鳥取の郷土芸能の演目は少なかったが、各団体が工夫を凝らしたステージを発表した。県内で評価の高いしゃんしゃん傘踊り団体を招き、少人数での質の高い演技を披露した。<br>また、ハワイアンフラでは「貝殻節」で振り付けを行うなど、地域の魅力を改めて発見するとともに、新しい魅力の発見にも繋がった。 | 達成度：達成<br>【成果】<br>多様な演目で、演技者の世界観や表現の感性に振れることができた。<br>日舞「鮎の会」等は後継者が少なくなりつつある中、若い舞踏家や中高生による現代と古典を継いでいく為の工夫をするなど、努力を積み重ねている。今回のステージでは和と洋楽のコラボ演奏が多く和楽器の魅力を引き出す効果があった。<br>ステージイベントや出展数が減少する中、入場者アンケートでは、特に満足したものととして「演奏等の質」、「演目」を挙げるものの割合が昨年を上回るなど、個々のステージでのパフォーマンスは充実したといえる。 |
| 総括               |                      |  | (20/21) ≒ 95.2%  | (20/21) ≒ 95.2%  |

## 【定量目標・実績】

|                | 目標     | 実績     | (参考) 昨年度実績 |
|----------------|--------|--------|------------|
| ① アンケート回収率 (%) | 40%    | 44.3%  | 43.8%      |
| ② 観客満足度 (%)    | 95%    | 92.8%  | 94.8%      |
| ③ 入場者数 (名)     | 1,000人 | 1,800人 | 3,524人     |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- 委員の拡充によってこれまで以上に知恵を結集し、濃い内容のイベントづくりができた。
- コロナ禍で文化イベントが軒並み中止となる中、感染状況をみながら中止やオンライン配信などの案を検討しつつも、例年より規模は縮小したがコロナ対策を講じた上で開催できたことは、文化芸術関係者のモチベーションを維持するとともに、来場者にその空間の雰囲気や臨場感を感じてもらうこともでき双方にとって意義ある開催となった。
- 全てを自主企画とし、各企画がレベルの高いものを提供することができた。ステージイベントでは「質を重視した魅せるステージ」という要望に出演者側も応えた内容を披露していただき、来場者満足度の高さにつなげることができた。
- 地元コミュニティFMによる広報を取り入れ、コロナ禍の不安定な状況でも新鮮で確かな情報を発信することができた。

#### ○課題

- ・すべて自主企画として質の高い内容を提供できたことが、来場者の満足度につながった。しかし、質の高さを公募で測ることは難しく、とはいえ今回のように自主企画のみとすると幅広い文化活動の周知という面で問題が多いため、運営方法の検討が必要である。
- ・今年度は歌唱を伴う団体は見送ったが、来年度は歌唱を伴うステージを踏まえた対策も必要である。また、伝統芸能を鑑賞するだけでなく、伝統芸能関係のワークショップを企画するなど、新しい取り組みも必要である。
- ・会館の性質上、1階イベント会場内を通り抜けるだけの方も多く、各入口に設けた受付ブースの対応に混乱が生じる場面もあった。また、イレギュラーな状況に臨機応変に対応できる人員の余裕がなく、今後は予め余裕をもたせた人員配置や対応方針を詰めておく必要がある。
- ・現在できうる限りの感染防止対策はできたと思うが、これ以上の対策を求められた場合、現状の委員の人数では対応しきれぬ可能性がある。来場者数を増やせばその分対応するスタッフの数も必要であるが、人数を増やせば情報の共有や対応、予算面等が懸念されるため、今後の課題である。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・コロナ禍であったが、開催できたことがまずは第一歩。
- ・今後も感染者がなく、無事の開催結果が出れば、言うことはありません。

### 【委員評価総括】

#### ○成果

- ・新型コロナウイルス感染者の増加が懸念され、各種イベントが中止となる中、例年より規模は縮小したものの、適切なコロナ対策を講じた上で開催できたことは、評価に値する。観客アンケートにおいても「コロナ対策がしっかりしてあった」、「参加者の安全に配慮があり、安心してよかった」などと評価する声が多数寄せられた。
- ・定量目標とした3点のうち、「観客満足度」は92.8パーセントと目標の95パーセントに若干届かなかったものの、「アンケート回収率」及び「入場者数」は目標を達成し、総合すると定量目標はほぼ達成できたものと評価できる。文化芸術関係者の発表の場を提供することでモチベーションを維持するとともに、来場者に各企画を楽しんでもらうこともでき、双方にとって意義ある開催となった。
- ・ステージイベントについてはレベルの高いものを提供し、来場者の高い満足度に繋げることができた。特に、「鳥取バロックアンサンブル」の演奏は秀逸であったし、「カプリス弦楽四重奏団+TERU功山」の演奏もオリジナリティにあふれ聴衆を楽しませた。
- ・感染状況が見通せないため、本事業について大々的に告知ができない中、「鳥取の星コンサート」は当日券も売り切れ、また、2日目のステージの来場は大盛況であった。今年は地域のお祭りも様々なイベントも中止、自粛生活が続く中、来場者の意欲や行動力に驚いた。人は文化活動と切り離せない。「心の豊かさ」という娯楽に県民が触れ合う機会。人生に潤いや元気の気が循環する役目を文化芸術分野は担っていることを再確認した。

#### ○課題

- ・2日目のステージ出演では、来場者が多くなったため会場がにぎやかになり、沢山パイプ椅子を出し、会場が密になりそうな状況になった。スタッフによる検温などは、各入口できちんとやっておられたが、状況に応じたコロナ対策としての課題がまだあるかもしれない。
- ・今年度、様々な工夫により本事業が無事終了できたことを経験値として活かし、来年度以降も状況に適切に対応した取組みになることを期待する。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・人と触れ合う・交流する、観る・感じる、体験を楽しむことは心の栄養になる。
- ・「鳥取の星コンサート」は普段観ることのないステージ（プログラム）だった。実力のある若い演奏家達のこれからの活躍が期待できるものであった。
- ・他地域のすぐれた企画を共有するなど、内容が一層充実するよう智恵を出して欲しい。



(2) 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2020中部地区事業(中部地区企画運営委員会)  
令和2年11月7日(土)、8日(日) 倉吉未来中心

【文化芸術事業評価シート】

| 目的               | 自己評価                               |  |  | 評価委員による評価   |
|------------------|------------------------------------|--|--|---|
|                  | 取組目標                               | 行動計画   | 達成度及び評価理由  | 達成度及び評価委員からのコメント  |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | だれもがアートに親しむことができる機会の提供、県民のアート活動の推進 | <p>様々な催しが中止となる中、県内の文化振興の一翼を担う文化祭として、しっかりとした感染防止対策を取り、出演者・観客が安心・安全に参加できるイベントとします。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>新型コロナウイルスの影響で始動を遅くせざるを得ず、例年より規模縮小となったが、開催判断基準の設定や来場者管理(入場チケット・イベント整理券制、観客数制限、アトリウムから小ホールへのメインステージの移動等)、その他様々な感染防止対策を講じながらコロナ禍においても開催することができた。</p> <p>【課題】<br/>前例が無い中で何をどこまですれば良いのか手探りで開催であった。主催者、出演者、来場者が理解できることが対策の基本であるので、今年のやり方や他の事例を検証し、引き続き出演者・来場者が安心・安全に参加できるイベントづくりを行う。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>新型コロナウイルス感染症の発生という前例のない状況の下で様々な対策を講じ、とりアート事業を継続実施できたことの意義は大きい。<br/>実施者、出演者そして観客のいずれもが感染症対策の意味を理解し、安全・安心な環境づくりへの協調した行動がとれた。</p> <p>【課題】<br/>来場者アンケートにおいて、「初回は検温・消毒が徹底されていたが3回目、4回目となると消毒を勧めるスタッフはいなかった」との指摘もある。最後まで感染症拡大防止対策に気を抜かないなど、今回の安全対策をしっかり検証し、次年度以降に活かしてほしい。</p> |
|                  |                                    | <p>新型コロナ対策に応じた規模としながらも「すそ野の拡大」を目指し、県民参加型文化祭として幅広いジャンルの企画を実施します。</p>                  | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>様々なイベントが中止となる中、実施出来ること出来ないことを判断しながら音楽、舞踊、朗読、展示など多様なジャンルのプログラムを提供した。</p> <p>【課題】<br/>地区事業の目的である「すそ野の拡大」を目指すには、出演者が固定化しないよう、自主企画、公募企画ともに活性化を図る必要がある。</p>   | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>とりアートへの出演を活動のモチベーションとしている常連のグループもあり、それなりのファンも存在する状況もある中で、実施可能性を吟味しつつ新しい企画も取り入れて演奏、演劇、舞踊、語りなど様々なジャンルの演目がバランスよく用意され、観客を楽しませた。</p> <p>【課題】<br/>取組目標とする「すそ野の拡大」のためには今後とも継続して広く公募し、プログラムの新陳代謝を図ることが不可欠である。次年度の更なる取組を期待したい。</p>   |

|                         |                                   |   |  |   |
|-------------------------|-----------------------------------|---|--|---|
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 鑑賞者や活動者、子ども、障がいのある人など、多様な方々の参画と育成 | <p>新型コロナ対策に応じた規模としながらも、「次世代育成」のテーマのもと、次代を担う子どもたちの発表の機会を確保します。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>新型コロナウイルスの影響で今年の活動が危ぶまれた「中部少年少女合唱団 MIRAI」や公民館活動でバンド活動に取り組む子ども達のステージ、昨年以上に応募があった「未来をえがこう！絵画コンクール」など、例年よりプログラムが減った中でも子ども達の発表機会を確保できた。また、公募企画の中でも子ども達の出演が見られた。</p>  | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>規模縮小によりプログラム数の減少を余儀なくされる中、従来からとりアートを発表の場として継続して活動している「中部少年少女合唱団 MIRAI」の参加や、昨年以上の展示があった「未来を描こう！絵画コンクール」、さらには新規企画の地元キッズバンドのライブなど、一定数の子どもたちによる発表の機会を確保できた点で、大変意義あるとりアートになったと思われる。</p>  |
|                         |                                   | <p>あいサポートアートと連携し、コロナ禍にあってもアート活動を続ける障がいのある方々の発表機会を設けます。</p>        | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>イベントの中止や無観客開催が続く中、アート活動に取り組む障がい者の方々の発表の場を設けることができた。継続的に参加している団体であったが、内容に工夫が施されており、成長や意欲が感じ取れた。</p>   | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>継続的に参加している団体であったが、内容に工夫があり成長が感じられた。演者からは観客の前で演ずることができている喜びと緊張感が感じられ、熱心に見入る観客も多く充実の舞台であった。</p>   |
| 「アート」で元気に～地域づくり～        | 地域の魅力や資源の再発見、地域のアートの魅力発信          | <p>地域住民が地域の文化資源や魅力、特徴や伝統に気づくことのできる企画を盛り込みます。</p>                  | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>湯梨浜町の「浪人踊り」や地域の民話といった伝統的なものから、キャリアも長く活動が盛んなアマチュアバンドのライブやフラダンスまで、新旧問わず地域色を取り入れた企画を実施した。</p> <p>【課題】<br/>今年オープンスペースでの開催ではなかったため、“たまたま見て触れる、良さを知る”ということが出来ず、貴重な伝統芸能であるにも関わらず多くの方に見ていただけなかった。<br/>また、出演者と来場者共に世代が偏った企画もあった。今後も引き続き地域資源を取り上げて行くとともに、感染防止対策を取りながらも、世代を問わず見る・触れる機会を設け、地域のアートの魅力を発信していかなければならない。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>鳥取県無形民俗文化財の「浪人踊り」からフラダンスまでプログラム数の少ない中であっても、地域における様々なアートの魅力発信が行われた。<br/>地域アマチュアバンドによる演奏もライブハウスさながらに盛り上がった。</p> <p>【課題】<br/>小ホールでのステージ（総入替制）は、その演目に興味のある人の入場が中心となってしまう、演目による観客の多寡や客層の差が大きいと感じられた。<br/>事業者評価にある「たまたま見て触れる、良さを知る」という観点からは、小ホールでの総入替制という選択がよかったのかどうか検証の上、次年度以降対応が望まれる。</p> |

|    |  |  |   |
|----|--|--|---|
|    | <p>コロナ禍での新しい様式として、可能な限りの方法でイベントへアクセスできる手段を講じ、地域のアートを発信します。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p><b>【成果】</b><br/> 観客制限や不安に感じ来場を抑える方向けに、当初はインターネットを通じたライブ配信を検討したが、設備や通信環境の懸念から見送った。その代わりとして、中部地区を放送エリアとするケーブルテレビ局が全編収録し、後日放送することとした。<br/> このことは、パンフレットに明記し、新聞折込を通じて中部地区各家庭へ広めた。ライブ配信やケーブルテレビは環境下にある方にしか見ていただけないが、コロナ禍での新様式として試みた。</p> <p><b>【課題】</b><br/> 生のアートを届けることがとりアートの主題であるので、やはり会場で直接見て、触れてもらうことを第一にしなければならない。<br/> そのためにも、今年行った対策の数々を検証し、開催と感染対策の両立を模索していく。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p><b>【成果】</b><br/> 地元ケーブルテレビによる映像放送というアクセスを取り入れ、実際に来場出来なかった方にも後日の放送で視聴する機会を提供されたことは、新型コロナウイルス感染症対策下の一手法（チャレンジ）として評価できる。</p> <p><b>【課題】</b><br/> 新型コロナウイルス感染症の拡大の中、現場でイベントを楽しんでもらう従来のアクセスパターンでは制約が大きいと考えられるものの、インターネットによる動画配信やケーブルテレビによる放映はその環境があるものにしかアクセスできないという欠点がある。<br/> 生のアートを届けることが本事業の主題であるので、アクセスチャンネルの多様化とともに会場で直接見て、触れてもらうことを第一に感染症対策との両立を模索していく必要がある。</p> |
| 総括 |  | (14/18) ≒ 77.8%  | (14/18) ≒ 77.8%   |

## 【定量目標・実績】

|              | 目標       | 実績       | (参考) 昨年度実績 |
|--------------|----------|----------|------------|
| アンケート回収率 (%) | 35%      | 46.2%    | 59%        |
| 観客満足度 (%)    | 88%      | 93.2%    | 94.4%      |
| 入場者数 (名)     | のべ1,500人 | のべ1,572人 | のべ3,786人   |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大以降、県内においても様々な催しが中止や延期となる中、灯を絶やすことなく今年もとりアート中部地区イベントを開催することができた。そして、イベントから2週間経過したが、幸いなことに感染者は発生していない。このような今までに無い状況下で開催できた経験は、今後活かされるであろう。
- ・アンケートより、催し自体への満足度は93.2%、コロナ対策への安心感も97%といずれも高い数値となった。前例が無い中、出来得る限りの対策や制限を設けながらの開催であり、特に来場者にとっては、平時よりひと手間もふた手間も手順が必要であったが、それでも高い満足度であった。このような情勢だからこそその思いで開催を決め、準備を進めてきたが、満足度から見ると我々の思いが伝わったといえる。
- ・中部地区は2009年より、学校や学年、地域を問わず参加できる「中部少年少女合唱団 MIRAI」に取り組んでいる。今年は初めてその結成が危ぶまれたが、思いのある子ども達や保護者、そして熱心な指導者のおかげで無事結成でき、練習の成果を発表することができた。さらに、昨年以上に応募があった「未来をえがこう！絵画コンクール」やバンド活動に取り組む子ども達による「キッズライブ」、湯梨浜中学校美術部が手掛けた「ステップアート」など、規模縮小とはなったが子ども達の発表機会を確保できた。

## ○課題

- ・規模縮小による来場者減は想定しており、結果、来場者が例年の4分の1であった。当面続くと思われるコロナ禍にあって、感染防止対策と両立しながらどのように生のアートを届けることができるのかを委員会で協議していく。
- ・新型コロナ対策の一環として、来場者情報の把握（感染者発生時の連絡先情報の入手）を目的とした「入場チケット」と各企画の来場者管理（観客人数制限）を目的とした「イベント整理券」の2種類を作成した。来場者が何かの企画を鑑賞しようとするこれら2枚が必要であったが、実際には片方しか持参していない方も多く、その説明に時間を取られる場面もあった。対策として押さえないといけないポイントを整理し、主催者側にも来場者側にもできるだけ負担なく分かりやすい方法を探っていく。
- ・来場者管理を目的にメインステージを例年のアトリウムから小ホールへ移したが、人数制限（100席限定）と入場整理券制も相まって、客入りが低調な企画もあった。ホールは発表の場としては環境が整っているが、とりアートの趣旨からすると、気軽に見聞きできるアトリウム（＝オープンスペース）の方が適しているかもしれない。今年の結果を踏まえ、それぞれの特性を考慮した会場設定を検討していく。
- ・企画数を絞った中であっても子ども達の出演、発表の場は設けたが、今年は全体を通して、とりアート中部の特色である子ども達やファミリー層での来場が少なかった。原因としては、例年よりそれらを対象とした企画が少なかったことや食ブースの見送りがあったと考えられる。とりアート中部がテーマとして掲げる「次世代育成」とは、子ども達がステージに立つことだけでなく、様々な体験することが狙いであるので、感染防止対策とバランスを取りながら鑑賞・体験機会を設けていく。
- ・公募出演者へも様々なコロナ対策への協力を依頼したが、メンバーに上手く伝わっていないと思われる場面や、そもそもの考え方にばらつきが見られた。このことに限らず、とりアートは個々の発表会ではなく、共通の枠組みの中で動き、皆で創り上げていくイベントであるという考えを持ってもらうよう、啓発をしていかなければならない。
- ・地区事業の目的である「すそ野の拡大」を目指すには、出演者や内容が固定化しないよう、自主企画、公募企画ともに活性化を図る必要がある。

## ○その他事業に関する意見、感想など

- ・繰り返しになるが、各方面が出しているガイドラインを参考にしながら、前例が無い中で手探りではあったが対策を講じ、何とか開催できた。恐らく当面は新型コロナウイルスとの共存が必要であると思われるので、今年の結果と課題を検証しつつ、新しい様式ととりアートの趣旨の下で地区イベントはどうあるべきかを委員会で議論をしていく。

## 【評価委員総括】

### ○成果

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大以降、県内においても様々な催しが中止や延期となる中、実施に向けた対策と検討を重ねられ、イベント規模の縮小や、企画内容・運営方法の変更等、従来とは異なる形ではあったが、とりアートの開催が実現したことは評価したい。
- ・出演者、観客、スタッフの安全・安心の確保のため、感染症対策に取り組み、観客アンケートにおいても「安心」、「とっても安心」と回答したものが97パーセントと高い評価を得た。
- ・また、定量目標とした①アンケート回収率、②観客満足度、③入場者数は、いずれも目標を達成した。

### ○課題

- ・前述のとおり、定量目標の3項目は実績が目標を上回ったものの、入場者数は例年の4分の1に留まるなど、想定内ではあったが長年積み上げてきたものにブレーキがかかる結果となった。今回の経験を踏まえて、安全・安心に配慮した上で従前の賑わいを取り戻す工夫を重ねられ、一歩でも前進する取組みが望まれる。
- ・新型コロナウイルス感染症との共存が言われる状況で、如何にとりアートの理念を実現し、事業を継続していくかの初年度となった。例年の、会場を行き会わせて鑑賞の機会を得る形を変更し、小ホールでの総入替制によるプログラムの実施は、入場者管理という面では成功したが、一方、イベント鑑賞には来場者情報の把握を目的とした「入場チケット」と各企画の来場者管理を目的とした「イベント整理券」の2種類のチケットが必要となり、来場者とスタッフ双方にとって負担となっている状況が見受けられた。
- ・事業者評価にもあるように、小ホールでの演目の中には客入りの少ないものもみられ（感染症対策が鑑賞意欲のハードルを高くし、入り口を狭くした？）たことから、演目の特性を踏まえた上でオープンスペースで気軽に見聞きできる演目もあってよかったのではないかと感じられた。
- ・今回はとりアート中部の特色である子供達やファミリー層の来場が少なかったとされるが、子供達の出演・発表の場が少なかったことや従前のとりアートでは賑わいを見せていたフードコートが設置されなかったことで、入場者の滞在時間が短くなるなどの影響も少なからずあったのではないかとと思われる。とりアート中部がテーマとして掲げる「次世代育成」とは、子供達がステージに立つことだけでなく様々な体験をすることも狙いであるので、新型コロナウイルス感染症対策とバランスを取りながら鑑賞・体験の機会を設けていくことが重要である。
- ・なお、個別評価でも触れたが、とりアート地区事業の目的である「すそ野の拡大」を目指すには出演者や内容が固定化しないよう、自主企画・公募企画ともに活性化を図ることも重要である。

## ○その他事業に関する意見、感想など

- ・自作演劇や合唱などの多様な文化に値する演目があり、また、幅広い年齢層の参加もあってとりアート事業の趣旨に沿った取組みとなった。
- ・地元ケーブルテレビによって広く県民に放映を行ったことは評価できる。
- ・県内各地の「民話」の演目は、本県の重要な無形文化遺産の普及という意味で高く評価できる。

- ・幼稚園、保育所の幼児、小学校児童、中学校、高等学校生徒の文化活動との連携、地域固有の芸能などの企画を検討してほしい。
- ・絵画コンクールの表彰式では絵と受賞者の間違いがあったので、事前に式の流れや名前確認のリハーサルができていればなおよかった。

(3) 第18回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2020西部地区事業(西部地区企画運営委員会)

- ・PART1：令和2年12月5日(土)～9日(水) ホープタウン
- ・PART2：令和3年2月23日(火・祝) 米子水鳥公園
- ・PART3：令和3年3月5日(金)～9日(火) 米子市美術館

【文化芸術事業評価シート】

| 目的               | 自己評価                  |   |  | 評価委員による評価  |
|------------------|-----------------------|---|--|--|
|                  | 取組目標                  | 行動計画  | 達成度及び評価理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | 県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供 | <p>気軽に文化・芸術に触れる機会の提供として、性質の異なる会場を複数設定し、会場の特性を活かした企画を提供する。</p> <p>【ホープタウン】<br/>日常訪れる地域に密着した商業施設を会場とすることで参加の機会を促す。老若男女問わずの利用状況を活用して、幅広い層の参加を促す。</p> <p>【米子水鳥公園・米子市美術館】<br/>地域の文化施設を会場とすることで、とりアートに関わらず、普段の日常から、文化・芸術に関わるきっかけづくりとする「米子水鳥公園」とアートに関連付けることで、アートに興味がなくとも、“水鳥”を実物で観察し、それをアート作品として制作するプロセスを体験することによって、アートを身近に感じる機会を提供する。<br/>「米子市美術館」は、芸術の地域拠点としての存在はあるが、敷居が高い印象がある。そこに自らの作品が展示されることによって、美術館を訪問することが特別ではなく、日常の中にあることを促し、日常から文化・芸術に関わる場所を知る機会とする。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>目的別に3回に分けて客層の異なる会場で実施したことで、普段アートに触れる機会が少ない方に身近にアートに触れる機会を提供した。<br/>各会場の特性を活かしたイベントが実施でき、子どもたちにもものを作る楽しさを伝え、イベント全体を通して、とりアート西部コンセプト「いつものまちでアートする」を実践することが出来た。</p> <p>【課題】<br/>コロナ禍での会場の大きさ、展示の導線、会場レイアウト、WS参加人数等想定が行き届かなかった部分が一部あり課題を残した。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>目的別に3回に分けて実施という意欲的な取組で、とりアートのイベントをより多くの人にアピールすることができた。<br/>それぞれの会場で参加者が楽しんでいる様子が多く見られ、アートを身近に感じられる機会となった。<br/>米子水鳥公園は、実際に鳥を観察しながらのワークショップが実施されていた。<br/>美術館での展示では、子供達が作った作品と共に二人のアーティストの作品も同時に展示され、質の高いアートを鑑賞しながら制作工房のレイアウト等バランスよく設営され、入場者が居心地よく過ごす様子が見受けられた。</p> |

|                                |                                       |   |  |  |
|--------------------------------|---------------------------------------|---|--|--|
|                                |                                       | <p>日本国内外で活躍し、県内に在住するアーティストを起用し、アーティストの特徴を生かし、今回は「鳥」をテーマとすることで、より内容を分かりやすくすることで参加を促す。</p> <p>また、地域のアーティストを起用することで、アートとそれを実践する存在を身近に感じてもらい、かつ、クオリティの高い作品を鑑賞する機会を提供し、WSを通して体験し、文化・芸術への関心を促す。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>「鳥」をテーマに招へいた地域及び国内外で活躍するアーティスト（朝倉氏、門永氏）の柔軟な対応によって、テーマ・コンセプトを最大限に活かした想定を超えたイベントを実施できた。</p> <p>また、来場者が、アーティストと直接話す機会があり、よりアートへの関心が高まり、身近に感じていただけた。</p>   | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>「鳥」をテーマとした今回のイベントに、朝倉氏と門永氏が参加指導され、質の高いアート経験が出来た。</p> <p>また米子美術館での両氏の展示作品が好評で、来場者が両氏と直接会話が出来た点も大きな成果で、来場者にアートへの関心を持ってもらう良い機会となった。</p>   |
| <p>「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～</p> | <p>支援者・担い手・後継者の育成、育成した人材を活用する場の提供</p> | <p>異なる性質の3会場を通じて、そこに訪れる人の異なる特性も活かし、幅広い人材を発掘する。</p> <p>また、参加・体験型の企画を重視し、アーティストを講師として迎え、参加者と直接触れ合うことで、アートへの関心をより身近に感じる機会とする。体験することが、直接関わっていくことのきっかけになるようにすることで、後継者の発掘につなげる。</p>                 | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>朝倉氏による今回のために創作したワークショップは、好評を得ることができ、アーティストの力を改めて実感した。米子市美術館では、レクチャー動画を上映し、体験の機会を設けることで、「アートに触れる」きっかけが増え、アートを身近に感じる事が出来た。尚且つ、サポートとして参画していただいたバードカービング米子のメンバーによって、体験しやすい充実した環境が作られた。</p> <p>アーティストと直接触れ合うことで、参加者はアートへの感心が高まるきっかけ作りを図れた。</p> <p>【課題】<br/>小学生以下の子供たちの参加が多かったが、中・高生の参加は少なく、人材の発掘まで至らなかった。文化芸術に関心のある若者を発掘する仕組みを含め、「とりアート」全体で教育機関との連携を検討していくことが課題である。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>ワークショップ参加者の多くが、小学生以下の子供たちであり、朝倉氏のアイデア・指導方法も無理なく楽しめる内容であり、アートに触れるきっかけ作りになった。</p> <p>参加者の多くが子ども連れの家族だったこともあり、アートを育むための触れ合いの場となって将来に希望を抱けるものだった。</p> <p>美術館では、ワークショップに参加した人達も訪れ、再度体験する事もあり、また、アーティストと直接触れ合うことで、よりアートへの関心が高まる機会となった。</p> <p>【課題】<br/>効果が出るのはまだ先の話だが、育成とはいかに継続するかだと考えるので、今回の参加者が来年も参加してくれる企画が期待される。</p> <p>「とりアート」全体への関心をより広く発信できる仕組みが今後とも望まれる。</p> |

|  |  |  |   |   |
|--|--|--|---|---|
|  |  | <p>実施者（アーティスト、活動者）と参加者が、企画を通してコミュニケーションを取り、アートに対する関心や意識、並びに世界観づくりを重視する。体験を通じて、参加者がいつものまちで身近にアートを実施できることを体感し、地元でアート活動を行っていく次世代のアーティストの輩出へとつなげていく。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p><b>【成果】</b><br/>朝倉氏には、3会場を通して積極的に参加者と触れ合い、アートの面白さを伝えていただいた。門永氏の参加は米子市美術館のみであったが、イベント期間中の多くの時間に、来場者への作品説明など、アーティストと触れ合う機会を提供した。バードカービング米子のメンバーには、もの作りの楽しさを伝えていくサポートなど馴染みやすい環境作りをしていただいた。</p> <p><b>【課題】</b><br/>行動計画として挙げていた「次世代のアーティストの輩出」へとつなげていくことが企画内容に盛り込めていなかった。あわせて、参加アーティストの柔軟な対応によって、企画内容に相乗効果が生まれるよう検討が必要である。今後、今回の成果を一過性で終わらせるのではなく、多くの地元アーティストがもっと事業に関われる体制作りが必要。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p><b>【成果】</b><br/>とりアートに深く関わっておられる朝倉氏は、参加者には大変好評のようで、触れ合いの場面が多々見られた。門永氏は、大人の来場者にとっては丁寧な説明を直接聞く好機となり、大満足の結果となった。<br/>また、バードカービンググループのメンバーもよくサポートされていた。</p> <p><b>【課題】</b><br/>同じアーティストの参加だと諸々の面で安心感はあるが、より企画内容の幅を広げるため、他の多くの地元アーティストを起用し、新鮮な企画をどんどん生み出せるよう体制作りをしてほしい。</p> |
|--|--|--|---|---|



|                         |                                    |  |  |   |
|-------------------------|------------------------------------|--|--|---|
| <p>「アート」で元気に～地域づくり～</p> | <p>日常的なアートとの関わりによる、アートのある地域活性化</p> | <p>日常の“いつものまち”のいたる所で、誰もが気軽に文化・芸術に触れることができるように、アートと関わるのが特別のような既成概念を取り払っていく。提供するアートのクオリティは高くしながらも、誰もが関わりやすい内容や場所を設定することで、予期せぬ出会いから、アートの楽しさを感じるきっかけづくりとする。</p> <p>また、その意識をさらにもう1歩前へ進め、自ら積極的にアートへと関わろうとする機会も提供するために地域のアートの拠点となる「米子市美術館」を会場に含めて、少し芸術性に特化した内容とすることで、参加者（鑑賞者）の意識の向上を促し、地域のアートへの関心を高めていく。</p>                              | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>3会場を通して、各会場の特性を活かし、幅広い層の参加者を募れた。</p> <p>ホープタウンという日常の買い物先で、文化芸術に触れる機会が少ない方々へも興味関心を持ってもらい、米子水鳥公園の協力の中、アートを越えた、地域文化との接点も盛り込んだユニークな取組となった。締めくくりとして米子市美術館を設定し、地域を代表するアーティストの作品を鑑賞する機会を提供できたことが、一連の企画において重要な位置付けとなった。なお、米子市美術館では他展示室における別団体のイベントとの相乗効果と思われる、とりアートを目的としない来場者が鑑賞し、とりアートを知ってもらえたことは、予期せぬ成果であった。</p> <p>ワークショップで「鳥」を朝倉氏の監修のもと自由な発想で楽しく作品を作成したことで、米子市美術館での質の高い展示の中でも調和できる作品ができ、アーティスト、WS参加者、来場者、皆が垣根なく楽しめる展示となった。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>今回、三つの会場で時期をずらして行った事で、より幅広い層の参加者を得る事ができ、それぞれの会場の特性を生かした内容の企画ができていた。</p> <p>三つの会場は日常的なアートとの関わりを実践するためには格好の場所だったと考える。</p> <p>各施設の協力も今回の成功をもたらす結果となり、それだけ市民のアート意識が向上してきたとも考えられる。</p> <p>締めくくりの美術館での展示は、幅広い層の参加者が見られ、質の高いプロの作品の鑑賞と共に子供達のワークショップ作品の展示というユニークなディスプレイが素晴らしかった。</p> |
|                         |                                    | <p>とりアートを、文化・芸術の実験場と捉え、アーティストが普段取り組んでいない事等への創作に向けたチャレンジの機会とし、とりアートだからこそできる可能性を提供することによって、アーティスト（実践者）の活動の場を広げ、アートに関わろうとしている人材への門戸を広げる。</p> <p>かつ、地域に密着した会場を設定することで、チャレンジしている部分での、実践者・体験（参加）者のお互いの反応を確かめる機会が生まれ、実践者にとっては内容のブラッシュアップへとつなげ、参加者にとっては、関わる機会の増加によって、地域全体でアーティストを育てる機運を育てつつ、アーティストが地域へ密着することで、地域全体がアートによって活性化することを目指す。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>各会場のワークショップスペースにおいては、朝倉氏をはじめ、バードカービング米子のメンバー、企画委員が子どもたちと一緒に製作することで、お互いにしっかり関わりを持って実施でき、アートに関わろうとする人材の門戸を広げられた。</p> <p>特に米子市美術館では、両アーティストの取組に興味を持った来場者が、当人と積極的にコミュニケーションを取る姿が見受けられ、さらには、自らの活動へのオファーや参考としてのヒアリングなど、地域の活動へと広がっていくと思われるような場面もいくつか確認された。</p> <p>来場者に地域の素晴らしいアーティストの存在を紹介出来たことも地域の活性化につながった。</p>   | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>二人の参加アーティストの魅力を充分発信できた機会となり、また、両アーティストの積極的な関わりにより、ワークショップ参加者や作品鑑賞者がアートを身近なものと感じることが出来た。</p> <p>10代、20代の参加者が少なかったのは残念だが、アートに関わろうとする人材の門戸を広げることには繋がった機会となった。また、地域との関わりも深められた。</p>   |

|    |  |   |   |
|----|--|---|---|
|    |  | <p><b>【課題】</b><br/>         今回、両アーティストに参加していただき、とりアートのコンセプトを基に企画内容を進めてきたが、アーティストの今後の活動に向けて、有意義な取組となる機会とまで十分につなげることができなかった。</p> <p>コロナ対策のために、他の多くの地元アーティストとの関わりが作れなかった。より多くの地元アーティストと関わりが持てるような企画を検討し、アーティスト発掘をしていく必要がある。</p> <p>あわせて、10代、20代が参加できる企画や体制を整えていく必要がある。</p> | <p><b>【課題】</b><br/>         他の地元アーティストの発掘を努力してほしい。</p> <p>あわせて、10代、20代が参加できる企画や取り組みを望む。</p> |
| 総括 |  | (14/18) ≙ 77.7%   | (15/18) ≙ 83.3%   |

## 【定量目標・実績】

|              | 目標     | 実績      | (参考) 昨年度実績 |
|--------------|--------|---------|------------|
| アンケート回収率 (%) | 45%    | 82.2%   | 43%        |
| 観客満足度 (%)    | 95%    | 94.4%   | 94.3%      |
| 入場者数 (名)     | 1,000人 | 3,054名※ | 1,266人     |

※PART1 (ホープタウン) 1,615名、PART2 (米子水鳥公園) 35名、PART3 (米子市美術館) 1,404名。PART1は、のべ入場者数としている。

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・「鳥」をテーマにし、朝倉氏、門永氏にとりアートのコンセプトをしっかりと伝え参加いただき、高いクオリティを保ったものが提供できた。あわせて、2人のアーティストと関係する諸団体との連携によって、近年希にないほどのとりアートとしての存在理由を感じることが出来た充実したイベントとなった。
- ・各会場においても、会場関係者の協力によって、とりアートを多くの方に知ってもらい啓発が図れ、想定を上回る成果が出せた。
- ・参加者の満足度が高く、「アート」に親しむ・「アート」が育む・「アート」で元気にと3つの取組目標が概ね達成できた。
- ・今年度は、コロナ対策を実施しながらの事業となり、当初の企画内容から、一部変更となったが、臨機応変に対応でき、幅広い層の人々がアートに触れ、心豊かにする場を提供することが出来た。

### ○課題

- ・関係者の協力によって、想定よりも良いイベントを創れたが、目標とした部分への更なる深掘りとなるような取組が希薄となってしまった。更なる取組のため、内部組織の連携の充実を図る必要がある。
- ・今後の「とりアート」もコロナ対策を万全にしながらの企画展開となると思われ、今以上にマンパワーとアイデアが必要となる。
- ・今後、コロナ対策を万全にし、多くの方に来てもらう(知ってもらう)ために、早めに広報スケジュールを策定し、幅広い世代への情報発信の方法を検討する必要がある。
- ・委員会で、広報の仕方、全体スケジュール管理や企画内容を具体化したものの情報共有が出来ていなかった。
- ・アーティストと打合せを重ねながら実施内容(ワークショップ等)の共通認識を持って、企画を進めていく必要がある。
- ・地域性に合わせた次世代に繋ぐ人材育成を継続的に進めていく。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・とりアートの在り方を改めて感じさせられる機会となった。異なる性質を持った会場で、一貫したコンセプト(テーマ)の元で組み立てた本年度事業であり、コロナ禍における制約によって生まれた課題と対処が、これまで踏み込めなかった課題への模索として良い材料になったと思う。
- ・脱コロナとなった状況においても、今年度得た成果と課題を整理し、更なる取組の発展に寄与できるように反映していきたい。
- ・地区委員等、とりアートに関わる方、特に仕事として関わる方を増やしていく必要があるのではと感じた。

- ・取組目標をすべて実現していくことは難しい。各地区の特色を生かし、特化した事業を地区ごとで進めいくことを提案する。

## 【委員評価総括】

### ○成果

- ・今回の「鳥」というテーマは、たくさんの人が興味を持ちやすい魅力的なテーマであった。
- ・3つの会場を有効に活用して、とりアートの目的を实践できた。
- ・その中でのワークショップは、朝倉氏のユニークな発想から楽しめる内容となり、熱心な指導に子供達も生き生きと創作していた。
- ・ワークショップの最初に「鳥」について水鳥公園の館長さんのお話があり、大人も子供も興味深い内容で、続いて取り組むワークショップのイメージ付けに効果的であった。
- ・最終の美術館の展示では、門永氏の質の高いバードカービングの作品、朝倉氏の色彩豊かなアート作品と共に子供達の作品も並び、大いにアートを楽しむ場となり、実際に作家さん達と気安く話かけられる雰囲気作りにも成功していた。

### ○課題

- ・すべての世代を巻き込むことは難しいが、今回は幼児を持つ家族連れが多く参加しており、次に繋げる次回の企画に期待がかかる。
- ・地元のアーティストの招聘については幅広く起用できるよう努力してほしい。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・コロナ禍における事業という事で、主催者側は諸々ご苦勞があったとうかがえるが、その中で楽しい雰囲気作りをされており、感染防止の対策も一定レベルできていた。
- ・とりアートのメンバーのチームワークの良さを感じることができた。
- ・今後もこの調子で魅力的な事業を発展させて頂くよう更なる飛躍を期待したい。

(4) 第11回とっとり伝統芸能まつり

令和2年8月29日(土) とりぎん文化会館(無観客ライブ配信)

【文化芸術事業評価シート】

| 目的               | 自己評価                     |   |  | 評価委員による評価  |
|------------------|--------------------------|---|--|--|
|                  | 取組目標                     | 行動計画  | 達成度及び評価理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | 地域の伝統芸能の継承・文化アイデンティティの確立 | <p>伝統芸能と地域のつながりを紹介して、その場所に行ってみたいと思える演出を行い、地域伝統芸能の舞台を通じて、出演者、鑑賞者が地域の魅力を再発見するきっかけとする。<br/>※とりネットアンケートフォームにより視聴者調査を実施する。</p>       | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>演技前にオープニング映像として地域を紹介する映像を流すことで地域の魅力を感じていただく演出を行った。</p> <p>(参考：アンケート回答29名のうち、「実際に現地に行ってみようと思った」の回答が11名・・・Web開催としたことでアンケート回収率が低いいため、これによる評価は行わず参考にとどめる)</p> <p>【課題】<br/>オープニング映像により地域の魅力を伝えることができているが、伝統芸能と地域のつながりという面での説明が不足していた。<br/>次回からは、演技の見どころをナレーションで事前に伝えることで、より演目に注目して観ていただけるような工夫も必要。</p> | <p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】<br/>各団体の演技前に地域を紹介する映像を流し、地域の魅力を発信した。<br/>視聴者にとって、親切でスムーズな導入になっており、出演者への親近感も湧き、実際の演技をより楽しむことができた。</p> <p>【課題】<br/>県内の視聴者や関係者に向けては行き届いた内容と感じたが、各団体を初めて知る視聴者や、県外の視聴者に向けてはややインパクトに欠け、記憶に残る十分な効果があったか疑問が残る。<br/>伝統芸能の生まれた経緯についての解説や、出演者の思いを語るインタビューなど鳥取の伝統芸能の魅力を伝えるためのさらなる工夫が必要と感じた。</p> |
|                  |                          | <p>鳥取県の地域に伝わる伝統芸能を多くの方々に知って興味を持っていただく。<br/>新型コロナウイルス感染防止のため、無観客でライブ配信し、県内外の多くの方に視聴いただき、鳥取の伝統芸能ファンの増加を図る。<br/>※目標視聴者数：1,000人</p> | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>ライブ配信時間中の総視聴回数は、YouTubeデータ分析によると、1,602回であった。<br/>必ずしも視聴回数＝視聴者数というわけではないが、重複視聴等の可能性を差し引いても、目標視聴者数1,000人は上回っていたと考えられ、多くの方に興味を持って視聴いただいた。<br/>(※視聴回数の数値分析参照)</p>   | <p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】<br/>当日、瞬間視聴者数は最大130名にとどまっており、視聴者数の時間変化が顕著なことから、同一者が複数回アクセスしている可能性もあるものの、ライブ配信で1,602回の総視聴回数を記録したことは、伝統芸能の配信としては十分な成果であると思われる。</p>  |

|                                |                               |  |   |  |
|--------------------------------|-------------------------------|--|---|--|
| <p>「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～</p> | <p>質の高い文化芸術活動・県民への鑑賞機会の拡大</p> | <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常より少ない演者数で演じるよう編成し直し、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容となるよう努める。<br/>※目標：視聴者アンケートより演目の質が高いと50%以上が回答</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>演目時間は15分～20分とできるだけ短縮しハイライトを集約したものとした。演目順も獅子舞の「静」の後はしゅんしゅん踊りの「動」となるよう、メリハリを意識した構成とした。<br/>(参考：アンケート回答29名のうち、「とても満足」もしくは「満足」と回答した人は28名。うち、良かった点として「演目」と回答した人は22名)</p> <p>【課題】<br/>太鼓やしゅんしゅん踊りのような「動」の演技に比べ、獅子舞のような「静」の演技は、視聴者が途中で飽きないような工夫が必要。</p>  | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>演目の時間設定や順序など、ライブ配信の制約を考慮したメリハリのある構成はうまく機能しており、鑑賞者が気軽に視聴して伝統芸能に触れることができる機会となっていた。<br/>撮影も、各演目の魅力や見所が伝わってくる構図やカメラワークになっており、質の高い配信であった。</p> <p>【課題】<br/>現在のウェブ環境では致し方ないことかもしれないが、素早い動きがあると映像が乱れ、やや見づらい箇所があった。<br/>また静寂の中での動きの表現に視聴しにくいところがあり、カメラアングルの工夫なども必要。</p> |
|                                |                               | <p>広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用し、効果的な広報に努める<br/>※チラシ・ポスター、新聞、地域生活情報誌、各自治体広報紙、ホームページ(伝統芸能まつり・アーカイブス)・SNS等</p>           | <p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】<br/>チラシ・ポスターの配布、東部地域生活情報誌「つばさ」掲載、財団主催「薪能チラシ」への掲載、倉吉市報、江府町報、米子市報への掲載、県政広報(8/7新聞)、NHKふるさと伝言板(8/21放送)への出演広報、報道機関への資料提供、とりネットHP掲載、とっとり伝統芸能まつりHP掲載、YouTube告知、文化政策課公式ツイッター、フェイスブックでの情報発信。<br/>(参考：アンケート回答29名のうち視聴のきっかけとなったのは「家族、友人、知人」の12名)</p> <p>【課題】<br/>次年度以降、集客開催時の広報については、リピーターの多い高齢者層が情報入手しやすいテレビ・新聞による広報の検討に併せ、今回初めてライブ配信を視聴いただいたような若年層に観覧してもらえるよう、SNSを活用した広報もより充実させる必要がある。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>様々な場所で本事業の広報物を目にする機会があり、県内の公共施設等での情報発信は行き届いていると感じた。</p> <p>【課題】<br/>今後もライブ配信を継続する場合、配信当日の情報発信をさらに積極的に行う必要があると思われる。<br/>配信に関心を持った人が、チラシが手元になくてもSNSなどで検索をすればすぐに視聴ができるような体制が望ましい。</p>   |

|                              |                        |  |  |  |
|------------------------------|------------------------|--|--|--|
| 「アート」<br>で元気に<br>～地域づ<br>くり～ | 人材育成<br>(指導者、<br>後継者等) | 演者として子どもたちに参加してもらうことで、伝統芸能への興味喚起を図る。<br>※無観客で開催するため、今回は高校生ボランティアによる運営参加は無しとした。 | 達成度：達成<br><b>【成果】</b><br>出演者演者86名のうち、10代もしくは10歳以下は31名だった。<br>出演団体からは、コロナ禍で演技機会が無くなるなか、子ども達は伝統芸能まつりへの出演を目標に練習を頑張れたという声もあった。 | 達成度：達成<br><b>【成果】</b><br>多くのイベントが中止になる中で、子供たちにとって貴重な発表の場を提供することができていた。<br>伝統芸能の次世代への継承に向けて、優れた人材育成の機会となった。 |
| 総括                           |                        |  | (11/15) ≒ 73.3%  | (12/15) = 80%  |

## 【定量目標・実績】

|                | 目標     | 実績         | (参考) 昨年度実績 |
|----------------|--------|------------|------------|
| ④ アンケート回収率 (%) | 40%    | 1.8%       | 56.4%      |
| ⑤ 観客満足度 (%)    | 99%    | -          | 100%       |
| ⑥ 入場者数 (名)     | 1,000人 | 視聴回数1,602件 | 585人       |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- 新型コロナウイルス感染症拡大予防対策のため、今回初めて無観客ライブ配信による開催を試みた。開催2週間前からは出演団体やスタッフへの体調管理等依頼、当日は可能な限りの新型コロナ予防対策を講じた上で実施し、幸いにも感染者発生もなく無事に終えることができた。
- ライブ配信中の総視聴回数は1,602回と、多くの方に視聴いただけた。会場に行かなくても自宅等で観覧できるという映像配信の利点を活かし、これまで足を運んだことのない方にも観ていただけたものとする。
- 「コロナ禍でイベントが軒並み中止になる中でよくぞ開催してくれた」、「地域の祭りが無くなってつまらなかったが久しぶりに楽しい時間だった」と喜びの声もいただいた。伝統芸能を披露する機会が失われる中、当該イベントにおいて伝統芸能の演技披露の機会を提供できたことは、伝統芸能の活力維持という面で意義があったと考える。

### ○課題

- ライブ配信視聴者に対し電子アンケートを実施したが、回答数がわずか29件だった。YouTube 概要欄にとりネットアンケートフォーム URL を貼り誘導、公演中複数回アンケートへの協力依頼を呼び掛けたもののアンケート回収率アップには繋がらなかった。操作がわかりにくかったこと、ひと手間を要するため敬遠されたことが原因と思われる。来年度は集客による開催を予定しているため、電子アンケートをすることは無い可能性が高いが、今後電子アンケートをする場合は、アンケートへの誘導をわかり易くする、回答者への特典を用意する等の工夫が必要。
- 今回は無観客ライブ配信であり集客を行わないイレギュラーな開催だったこと、アンケート回収率が極端に低く客観的な成果について判断ができないことから、今回の課題がそのまま次年度以降の集客開催時の課題となるものではないが、広報に関しては、今回、十分な広報ができたとは言えず、今後限られた予算の中での効果的な広報方法について引き続き検討を行う必要がある。
- ライブ配信の総視聴回数が予想を超えて多かったことから、映像配信が伝統芸能ファンの拡大に有効な手段であることが分かった。予算があれば集客開催プラス映像配信という方法により、伝統芸能ファンのさらなる拡大を目指すことも検討したい。

## 【委員評価総括】

### ○成果

- コロナ禍で例年どおりの実施ができない中で非常に質の高い無観客ライブ配信を実現し、伝統芸能の発展・普及の場としての「伝統芸能まつり」を継続して開催できたことは評価できる。また、ただ舞台を撮影・配信するだけでなく、演技前のオープニング映像や司会のトークによって、視聴者を飽きさせない工夫や、演目・演者により親しみを持ってもらうための工夫がみられた。結果的に、これまでの観客に限らず、県内外のより広い客層に届く事業となったことは、今年度の大きな成果である。
- 演者にとっても、多くのイベントが中止・延期になる中で、本事業が貴重な発表の機会になったのではないかと思う。十分な感染対策を施し、新規感染者を出すことなく無事に実施できたことで、今後行われるイベントやライブ配信にとっても一つのモデルとなる事業となったのではないかと。

### ○課題

- 今年度は観客ライブ配信により、参加・視聴可能な観客層が大きく広がった分、特に県外の新規視聴者をいかに開拓し、配信を楽しんでもらうかという、新たな課題が生まれた。また無観客ということで、演者の受け止めに多少の戸惑いや物足りなさがあったように感じられた。視聴者にもより臨場感を感じてもらえるように、スタッフによる

拍手などの工夫があれば良かった。

- ・アンケートの回収率は目標を下回り、回答方法をより簡易化するなど改善が必要である。来年は電子アンケートの予定はないとのことだが、今後も再び電子アンケートをとる必要がある場面が来ることは十分にあり得るので、今年度の反省を踏まえ、対策を講じておくことが望ましい。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・来年度は集客による開催を予定しているとのことだが、自己評価総括で述べられている「集客開催プラス映像配信」の方向性もぜひ検討していただけたらと思う。コロナ禍が一年で解決に向かうとは限らず、また今後も様々な災害やアクシデントが起こる可能性もあることから、多様な発表・発信形態を模索し、そのための具体的な経験を積んでおくことは、未長く鳥取の伝統芸能を存続・継承していく上でも大きな価値がある。また、今回収録された映像をアーカイブ化し、県庁のウェブサイトなどを通じていつでも視聴可能できるようなデータベース構築を望む。
- ・鳥取県内で地域の伝統芸能に興味を持つ人々や、演者の関係者にとっては、コロナ禍でも気軽に舞台の視聴ができる良い機会となったが、やはり県外に向けて鳥取の魅力を発信するためのさらなる工夫が必要である。ウェブに親しみのある視聴者だけを対象とするのではなく、例えばケーブル TV での放映なども要検討。
- ・高校の郷土芸能部の参加が 1 団体でもあれば、さらによいと思う。また、オンライン開催であっても、イベントの情報発信等で高校生ボランティアに参加してもらうことも考えられる。

(5) 第64回鳥取県美術展覧会

令和2年9月19日(土)～11月23日(月) 県立博物館、他

【文化芸術事業評価シート】

| 目的               | 自己評価         |  |  | 評価委員による評価   |
|------------------|--------------|--|--|---|
|                  | 取組目標         | 行動計画   | 達成度及び評価理由  | 達成度及び評価委員からのコメント  |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～ | 出品拡大と県展の魅力発信 | <p>出品申込書等を紙媒体での配布に加え、Webからエクセル、PDFデータでダウンロードできることにより出品者の利便性向上につなげ、出品数の増加を図る。</p> <p>※エクセルデータによるダウンロードは今年度からの取組。(PDFはR元年度～)</p> | <p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】<br/>Webから出品申込書等をダウンロードした者は7.2%となり、昨年度の6.9%より増えた。</p> <p>【課題】<br/>上記のとおりWebから出品申し込み等のダウンロード数は増加したが、出品数は一般応募449点、無鑑査作家等作品121点の合計570点(昨年595点(一般480点、無鑑査作家等115点))となり、出品数の増加につながらなかった。</p> <p>引き続き出品数の利便性向上を図るとともに出品数を増やす新たな取り組みを行う必要がある。</p> | <p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】<br/>・ダウンロード数は増えていることは今後につながるだろうが出品数の増加にどうリンクさせるか。</p> <p>【課題】<br/>・出品数の増加を図る工夫が必要か。<br/>・応募方法や応募資格等に問題があるのではないか。<br/>・参加者のアンケートだけでなく美術関係者への聞き取りが必要ではないか。<br/>・出品数が2年前(第62回)に600件を切り歯止めがかからない。学生を含め若年層の掘り起こしが必要ではないか。<br/>・県展は県民の文化芸術活動の重要なイベントであり出品拡大と来場者増加は最重要課題である。</p> |
|                  |              | <p>チラシ・ポスターのデザインを5年ぶりに見直し、若年層を含めた幅広い層へ県展を発信する。</p>   | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>チラシ・ポスターを見た人からわかりやすいなどの声があり、訴求力の高いデザインにすることができた。</p> <p>また、県展を幅広く周知するため、県展の会期を記載した案内葉書を作成し、作品受付、及び各会場の会期中に配布した。</p> <p>来場者アンケートの結果、20歳代以下の来場は8.5%となり、前年の6.5%より増加した。</p> <p>【課題】<br/>来場が少ない30歳代以下の層に対して、効果的な情報発信を行う必要がある。</p>         | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>・20代以下の来場者(アンケートより)は増加し30代を含め13.3%であり県展の幅広い層に発信していることは評価できる。</p> <p>【課題】<br/>・来場者の固定化、減少化をなくすため若年層に対して効果的な発信を行うことが大切である。<br/>・若年層へ発信する数値目標の設定をどの程度におくのか。</p>  |



|                         |                                 |   |   |   |
|-------------------------|---------------------------------|---|---|---|
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 観覧者の作品への理解促進                    | <p>出品者が作品に込めた思いや工夫した点等を記載した作者コメントを掲示（出品者の任意）することで、観覧者の理解向上を高める。</p>                         | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>来場者アンケートにおいて、作者コメントは「よい取組である」が77.1%となり、観覧者の理解向上につながったと考える。<br/>また、アンケートの来場者コメントでは「作品の世界観が伝わった」「作品をパッとみて終わりではなく、コメントを読んで改めて作品を見直す行動につながる」などの意見があった。</p> <p>【課題】<br/>来場者より作者コメントの文字が小さく読みづらいなどの意見などがあることから改善を検討していく必要がある。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>・作者コメントの掲示が無かった時に比べ観覧者への理解向上につながっているので今後も継続を望む。</p> <p>【課題】<br/>・作者コメントの作成は作者により賛否があろうが観覧者の理解向上に繋がっているので作者全員のコメント参加をお願いしたい。<br/>・作者コメントの文字大きさを読みやすくするよう検討をお願いしたい。</p> |
|                         |                                 | <p>米子会場のギャラリートークの2班同時進行から1班制へ変更、及び日南会場のギャラリートークの1部門あたりの講評時間を7～8分から15分へ拡充により、参加者の理解を深める。</p> | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>ギャラリートークを1班制、講評時間を延長することによって、参加する側の負担が増え、参加数が減少することが心配されたが、米子会場、日南会場ともに従来と変わらず多くの方に参加いただいた。（各部門の参加者数20人～30人）</p>  | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>・従来のギャラリートークの2班編成で同時進行の改善が図られたのはよい試みである。</p>  |
| 「アート」で元気に～地域づくり～        | 観覧者の関心度向上と県内作家の質の高い作品を鑑賞する機会の提供 | <p>鑑賞者が展示作品の中から部門ごとに好きな作品に投票する来場者参加型の取組を行うことにより関心度向上を図る。</p>                                | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>昨年度から実施した観覧者投票は鑑賞者から「自分の好みで投票する方式はおもしろい。一生懸命に見た。」「好きな作品を選ぶ目的があり、より細かいところまでじっくりと見ることが出来た。」などの意見があり、関心度向上につながったと考える。</p>  | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>・観覧者投票は観覧者がより一層熱心に観覧しようとする取り組みで関心度や理解度を深める機会につながっている。<br/>・観覧者投票「あなたが好きな作品賞」（各部門1点）の結果がTVで放映され広報に役立っている。</p>  |

|    |   |   |  |
|----|---|---|--|
|    | 一般応募作品の中から審査によって選ばれた作品、県内外で活躍する県展無鑑査作家の作品を展示することで、質の高い作品の鑑賞機会を提供する。 | 達成度：達成<br><br>【成果】<br>来場者アンケートにおいて、回答者の半数（50.3%）が満足した点に「作品の質」と回答していることから、質の高い作品の鑑賞機会につながった。 | 達成度：概ね達成<br><br>【成果】<br>・アンケートで特に満足した項目に「作品の質」を挙げた数が近年30%台で推移していたが50%以上となり支持を得たことは評価できる。<br><br>【課題】<br>・質の高い作品をアンケート50%越で質の高さを評価できるのか。「改善が必要」の中では3番目の高さ（6.7%）である。<br>・「質の高さ」とは？の検証も必要か。<br>・一般参加者の作品が減少し無鑑査等が増加して全体の作品の質は上がったように見えるが10年来、県展を鑑賞しているが作品の質が向上しているとは思えないがどうか。 |
| 総括 |   | (14/18) ≒ 77.8%   | (13/18) ≒ 72.2%  |

## 【定量目標・実績】

|                | 目標     | 実績     | (参考) 昨年度実績 |
|----------------|--------|--------|------------|
| ⑦ アンケート回収率 (%) | 40%    | 46.1%  | 38.2%      |
| ⑧ 観客満足度 (%)    | 96%    | 96.4%  | 95.0%      |
| ⑨ 入場者数 (名)     | 9,500人 | 8,965人 | 10,015人    |

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・定量目標としているアンケート回収率、観客満足度、入場者数の3項目のうちアンケート回収率、観客満足度の2項目において目標値を達成することができた。
- ・入場者数は昨年度より減少しているが、コロナ禍の中、多くの方に来場いただいた。昨年度より減少している要因は、新型コロナウイルス感染症への懸念による来場の自粛、表彰式の規模縮小（例年、県展賞、奨励賞受賞者を表彰していたが今年は県展賞のみ表彰）、及び日南会場と同時開催されている「にちなんふる里まつり（日南町主催）」の規模縮小（ステージイベント、飲食ブースの中止）などが影響したと考えられる。
- ・昨年度から実施した観覧者投票（好きな作品に投票）が定着化したこともあり、アンケート回収率は、46.1%となり昨年度38.2%からさらに向上した。（参考：観覧者投票導入前（H30）のアンケート回収率19.8%）  
※アンケートの裏面に投票用紙を印刷しアンケート回答を促した。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、入館時に検温、手指の消毒、問診票の記入、とっとり新型コロナ対策安心登録システム（QRコード）の活用を行うことにより、来場者が安心して鑑賞できる環境の提供につながった。アンケートの自由記載においても「コロナ対策が万全にされている」「コロナ対策が徹底されていて、安心して鑑賞することができた」などコロナ対策を評価する意見が多数あった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響によって国内の22県で県展が中止となる中、当県では感染拡大した場合の対策（Web展示への切替や中止）を予め規定しながら通常開催することができた。

### ○課題

- ・今年度は新型コロナウイルスの影響による絵画教室等の休止などにより作品制作ができないことなどから作品出品数は570点となり、昨年より595点より減少した。今後は出品数増加を図るため、これまで県展に出品していない者に関係者の協力を得ながら応募を呼び掛ける。
- ・観覧者に見やすい表示とするため、県展運営委員の協力のもとキャプションのレイアウト、字体を変更したが、来場者アンケートにおいて文字が小さく読みづらいとの意見が多くあったことから、引き続きレイアウトなどの改善を検討していきたい。

## 【委員評価総括】

### ○成果

- ・新型コロナウイルスが収束していない中で関係者のご尽力により開催できたのは評価できる。
- ・定量目標のアンケート回収率、満足度の2項目を達成し特に回収率が大きく上回っているのは評価できる。
- ・観覧者投票は好評で参加型の取り組みは今後も継続していただきたい。

### ○課題

- ・県展の重要課題は ①出品数（特に一般作品）の減少 ②若年層を含め来場者の減少である。出品数の減少は今に始まったことではなく、10年前は676点（H23第55回）、今回は570点である。一般作品応募をみても、556点が449点と100点以上の減少である。出品数増加への取組みをしっかりと模索していただきたい（過去5年の出品数をみると、書道・写真各部門の減少が目立つ。）
- ・若年層の入場者増加については、チラシ・ポスターのデザインの見直しに取り組んだが大きな成果はあがっていない。今後どんな手法で取り組むのか知恵を出しあっていただきたい。
- ・今後も県展を継続していくためには若い世代にとって魅力的な作品発表の場をいかにつくるか。
- ・開会式典の会場の音響環境が悪くマイクの声が聞き取れなかったので改善を要する。
- ・ギャラリートークについて、考慮しなければならないのは8部門全て聞きたくない観覧者へは時間配分を事前に伝える等の工夫も必要か。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・若年層の県展参加（作品応募、入場者数増加）の手法として例えば、「ジュニア県展コーナー」の設置はどうか。小学生、中学生を対象とした「ジュニア県展」（今年で18回目）が3部門（絵画デザイン、書写、写真）で開催され、12月～1月にかけて優秀作品は県内3か所（東、中、西部地区）で展示されている。出品数も3,600点、2,500点、640点と多く、知事賞・教育長賞・奨励賞・入選が設けられ、それぞれ18点、42点、93点、1,281点が受賞している。
- ・ジュニア県展で受賞した優秀作品を県展に展示し紹介すれば、若年層の入場者の増加、作品制作への意欲の向上、どの年代にも刺激になり今後の県展発展につながるのではないか。（ジュニア県展の作品展示は、募集期限が異なるため1年遅れの作品になるが。）（高校生、短大生、大学生、専門学校生、20代、30代への具体的なアプローチはないものか。）
- ・若年層入場者増加の工夫として、小・中・高校の学校行事や部活動とタイアップした鑑賞の機会をつくってはどうか。
- ・会場によってはBGM（主にクラシック）が流れリラックスして作品鑑賞ができたので全会場でもどうか。
- ・障害のある人への配慮として椅子の準備をお願いできないか（鳥取会場）。
- ・開会式の開催内容、ギャラリートークの実施方法など工夫改善が必要である。

(6) 第2回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌大会

令和2年12月13日(日) 米子コンベンションセンター

【文化芸術事業評価シート】

| 目的                      | 自己評価                                 |   |  | 評価委員による評価  |
|-------------------------|--------------------------------------|---|--|--|
|                         | 取組目標                                 | 行動計画  | 達成度及び評価理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ～環境づくり～        | 県民が万葉集と鳥取県のつながりを認識し、万葉文化や文芸に親しむ環境づくり | 単に作品を募集し審査するだけでなく、チーム対戦方式で、パフォーマンスも取り入れることにより、より多くの県民が審査過程や短歌作品に関心を持って観覧できる大会形式とする。 | 達成度：達成<br>【成果】<br>高校生が自由なパフォーマンスで短歌を発表することにより、新しい短歌の表現、楽しみ方を提案することができた。<br>審査員からも、「3首の組み合わせによって新しい魅力が生まれた」、「詠み上げられた瞬間に目を見たときは違う伝わり方をするのがあって、朗読の力を再確認した」等のコメントがあった。 | 達成度：達成<br>【成果】<br>単に作品を投稿し評価を受けるスタイルとは違い、朗読などの自由なパフォーマンスを取り入れた表現形式が実施されていた。<br>審査員の評価の話が的確であり、関心を持ちながら親しむことが出来た。<br>発表の仕方は、各チーム工夫があり、内容も高いレベルであった。 |
|                         |                                      | チラシ、ポスターに地元マンガ家のイラストを採用し、親しみやすいデザインとする。   | 達成度：達成<br>【成果】<br>チラシ、ポスターに地元マンガ家のイラストを大きく配置し、色彩もピンクを基調にまとめたことで、高校生の目に止まりやすく、明るい印象のデザインとなった。   | 達成度：達成<br>【成果】<br>チラシやポスターは高校生がなじみやすいイラストであった。   |
| 「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～ | 若い世代が万葉集や短歌などの伝統文化に親しむ機会の提供、すそ野の拡大   | 県内の高校、特に万葉集と鳥取県とのつながりが薄い西部の高校に対し、積極的に応募を呼び掛け、高校生が万葉集や短歌に触れるきっかけとする。                 | 達成度：一部達成<br>【成果】<br>県内からの参加校6校のうち、西部から3校の応募があり、うち2校は初応募だった。<br>【課題】<br>県内高校生の文芸活動の活性化、及び鳥取県が万葉集ゆかりの地であることの認知度と作品レベルの向上を期待し、今後も継続して参加を促し、参加校の増加を目指す。                | 達成度：概ね達成<br>【成果】<br>県内からの参加校6校のうち西部が3校あった。<br>西部の高校に積極的に応募を呼び掛けた成果といえる。<br>【課題】<br>万葉集とのつながりの深い鳥取県でありながら、高校生の短歌への関心がまだまだ薄いのは現実である。                 |
|                         |                                      | 本選出場8チームのうち2チームを県内枠とし、県内の高校生が全国の高校と共に戦い、切磋琢磨する機会とする。                                | 達成度：達成<br>【成果】<br>本選大会には鳥取東高から2チームが進出。うち1チームは準決勝に進出して大会第3位となるとともに、パフォーマンス特別賞を受賞した。<br>また、審査員特別賞受賞者3名のうち、1名が鳥取東高の生徒であった。<br>県外からの出場チームには、他の短歌大会で入賞した強豪校も多い中、大変健闘した。 | 達成度：達成<br>【成果】<br>鳥取東高から出場した2チームの活躍が目覚ましかった。<br>全国レベルの高校と互角にパフォーマンスできた。  |

|  |  |   |  |   |
|--|--|---|--|---|
| <p>「アート」<br/>で元気に<br/>～地域づ<br/>くり～</p> | <p>県民が「万葉の郷とっとりけん」を地域資源として再認識できる機会の提供、全国へ向けたPR</p> | <p>当日の動画を YouTube 及び、大会概要の HP への掲載や、SNS での発信等により、県内外に広く「万葉の郷とっとりけん」を PR する。</p> | <p>達成度：一部達成</p> <p>【成果】<br/>当日の動画（ダイジェスト、本編、大会未発表のパフォーマンス動画）を県の公式 YouTube チャンネル「とっとり動画ちゃんねる」に掲載し、ダイジェスト（約6分間）は目標及び昨年度を大きく上回る 253 回のアクセスがあった。</p> <p>本編（約2時間55分）は、「とっとり動画ちゃんねる」を管理する広報課の Youtube 公開に適した長さ（3分程度）の動画を優先して掲載する方針のため、限定公開（アドレスに直接アクセスした際のみ表示され、検索にヒットしない）としたこともあり、アクセスは少なかった。</p> <p>【課題】<br/>今回は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当日の観覧者の獲得に向けた積極的な広報ができなかったが、今後は、SNS も活用し、作品の募集から大会当日に至るまでの過程を、リアルタイムに情報発信するなど、より効果的な PR 方法を検討する。</p> | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>当日の動画発信等ある一定の SNS での発信は実施できた。とっとり動画チャンネルへのアクセスが 253 回と昨年度を上回った。</p> <p>【課題】<br/>県内外に広く PR できたかは今一つであり、YouTube 等へのフル配信に課題が残った。</p> |
|  |  | <p>全国で短歌に取り組む高校に対し応募を呼びかけ、短歌大会への応募等を機に「万葉の郷とっとりけん」を知っていただく。</p>                 | <p>達成度：概ね達成</p> <p>【成果】<br/>県外からの参加チーム数は、令和元年度の 17 チーム（12校）に対し、今回は 32 チーム（17校）と、増加した。また、11校から今回初めての応募があった</p> <p>【課題】<br/>これまで募集案内を送付してきた他の短歌大会の歴代入賞校だけでなく、高総文祭文芸部門の出場校や、全国高校文芸コンクール短歌部門の受賞校など、文芸活動や短歌への取組の実績がある学校などへの周知を図る。</p>   | <p>達成度：達成</p> <p>【成果】<br/>11校から初めての参加があるなど、参加チームは 32 チーム（17校）と大きく伸びた。</p>   |
| <p>総括</p>                              |  | <p>(13 / 18) ≒ 72. 2%</p>   | <p>(16 / 18) ≒ 88. 9%</p>  |   |

## 【定量目標・実績】

|   | 目標   | 実績   | (参考) 昨年度実績          |
|---|------|------|---------------------|
| アンケート回収率 (%)                              | 40%  | 50%  | —                   |
| 観客満足度 (%)                                 | 90%  | 80%  | —                   |
| 入場者数 (名)                                  | 15人  | 10人  | 50人                 |
| YouTube 動画 (ダイジェスト)<br>再生回数 (回) ※公開後 1 か月 | 70回  | 253回 | 190回<br>※公開後約 1 年経過 |
| YouTube 動画 (全編)<br>再生回数 (回) ※公開後 1 か月     | 200回 | 78回  | 425回<br>※公開後約 1 年経過 |

※大会当日は、観覧自由であるが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、積極的な広報や集客を行わないこととしている。

※動画の公開は、大会開催の約 1 か月後を予定している。

## 【自己評価総括】

### ○成果

- ・応募数については、参加チーム数は前年並みであったが、参加学校数は 17 校から 23 校と増加し、県内外での大会の認知度が高まってきたと言える。また、県外から他の短歌大会の常連・強豪校の応募があり、大会全体のレベルが非常に高くなった。審査員からも、「プロと言えるような作品もあった」、「高校生のレベルの高さに驚き、刺激になった」等の感想をいただき、高評価であった。
- ・本選大会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県外チーム及び審査員はオンライン参加とし、パフォーマンスは事前に提出された動画により発表することとした。他の高校生を対象とした短歌大会では紙上審査のみとした大会もある中、オンラインではあるが全国各地の他のチームとの交流や審査員との意見交換ができ、参加した高校生からも「コロナ禍で暗い気持ちの日が多かったが、無事開催されてとても嬉しかった」「全国の高校生の短歌のレベルの高さに感激した」等の感想をいただいた。
- ・令和元年度に初めて開催した大会であったが、2 回目を迎え、地元マンガ家のイラストを大きく配置したチラシ・ポスターの作成、審査方法やパフォーマンスの方向性など、大会運営のノウハウを蓄積することができた。また、オンライン開催という新しい手法に挑戦し、当日の大会進行も概ねスムーズに進めることができた。
- ・ダイジェスト動画の公開後 1 か月の再生回数が 253 回となり、行政が配信する動画としては、比較的多く視聴されたと考えられる。

### ○課題

- ・ダイジェスト動画は比較的多く視聴された一方、本編動画の視聴回数は、限定公開であることを考慮しても、伸び悩んだ。大会の中では、高校生が心を込めて作った短歌作品について、審査員から熱心なコメントがあり、大会を通してご覧いただければ、31 文字に制限された詩形から無限に広がる短歌の多彩な魅力が感じられる内容となっているだけに残念である。台風接近と重なり縮小開催となった昨年度に続き、今回も新型コロナウイルス感染症対策のため積極的な集客ができなかったが、来年度以降、通常開催となった場合には、大会及び短歌の魅力を十分に広報し、一人でも多くの方に大会をご覧いただきたい。
- ・オンライン開催のため、各対戦の前後に接続の切り替え等の時間を要したことに加え、試合が盛り上がるにつれて審査員の講評が長くなるなど、予定していた終了時間を大幅に超過した。通常開催とする場合にも、進行管理に工夫が必要である。
- ・予選への応募作品の取りまとめ、コロナに対応した実施方法の検討等に時間がかかり、本選出場チームの発表が予定の時期より 1 週間程度遅くなったため、出場チームが本選用の作品やパフォーマンス動画を作成する期間が短くなってしまった。開催後の出場チームからのアンケート回答でも、「本選出場決定から当日までの準備期間が短かった」との意見が複数あった。高校の考査期間等に考慮した本選当日までのスケジュール調整に加え、応募方法や審査基準など、高校生が無理なく、楽しく参加できるよう、今回本選大会に参加した高校生の意見等を踏まえ、運営方法を適宜見直していく必要がある。
- ・県内からは、昨年度に引き続いて鳥取東高が本選に出場し、全国の強豪チームを相手に健闘する一方、その他の応募校については、入選作品は少なかった。県内の高校の文芸活動の活性化と短歌の若い世代への普及を図るため、学校現場に対し、引き続き参加を働きかけていきたい。

## 【委員評価総括】

### ○成果

- ・コロナ禍の中での開催だったが、参加校数 23 校と前回より 6 校増加した。
- ・県内の鳥取東高の 2 チームは短歌大会本選で、他校に負けないパフォーマンスを披露していた。審査員の方々の作品、パフォーマンスに対する評価は高いものが多かった。レベルの高い大会であった。
- ・今大会は、次へつなげるだけの成果を得た。

### ○課題

- ・「万葉の郷とっとりけん」の全国への浸透がまだまだこれから。いかにアピールするかは、地元鳥取県の高校生の参加数の伸びにかかっている。

- ・県内・全国へのアピールが課題だ。
- ・予定時間が大幅に超えてしまった点、進行管理に課題を残した。

○その他事業に関する意見、感想など

- ・高専ロボコン大会のようなメジャーな大会に成長して欲しい。
- ・審査員のお姿が逆光のためか見づらかった。
- ・審査員の審査の札の色が、白か緑か判別しにくく、どちらが勝ったのかリアルに分かりづらい時があった。

(7) 第6回合同公演ミュージカル「オズの魔法使い」

令和2年12月20日(日) 米子市文化ホール

【文化芸術事業評価シート】

| 目的                              | 自己評価             |   |  | 評価委員による評価  |
|---------------------------------|------------------|---|--|--|
|                                 | 取組目標             | 行動計画  | 達成度及び評価理由  | 達成度及び評価委員からのコメント   |
| 「アート」に親しむ<br>～環境づくり～            | コロナ禍のもとでの鑑賞機会の創出 | 観客のコロナ対策<br>体温検査、アルコール消毒<br>マスク着用、住所氏名記入<br>家族などのグループごとの<br>席明け、感染アプリ利用 | 達成度：概ね達成<br><br>【成果】<br>入場口、受付に20人を配<br>置し、感染対策の万全を期し<br>た。<br><br>【課題】<br>観客50%が解除になり、<br>80%となりお客様に不安を<br>与えた。 | 達成度：一部達成<br><br>【成果】<br>入場口で、体温検査、アル<br>コール消毒、紫外線照射、新<br>型コロナウイルス接触確認<br>アプリの呼び掛け、住所氏名<br>記入(チケットに)が実施さ<br>れていた。開場時間を早める<br>など対応がみられた。<br><br>【課題】<br>入場口付近に長蛇の列が<br>出来ており、並び方も密にな<br>っていた。検温は外と中に測<br>定できるようにしてあった<br>が、スムーズに機能しておら<br>ず、結局入場に時間がかかり<br>、開演時間の遅れに影響し<br>た。<br>ポスターにコロナ対策と<br>して「席を空ける」と表示し<br>てあったが、家族・グループ<br>ごとの席空け対策が十分で<br>はなかった。チケット販売数<br>の調整や場内整理の人数を<br>増やすなど、もう少し細やか<br>な対応が必要ではなかった<br>か。 |
|                                 |                  | 劇団内のコロナ対策<br>オゾン、UVを使った練習<br>空間、マウスガードで練習<br>体調管理、手指消毒、個別<br>練習、        | 達成度：概ね達成<br><br>【成果】<br>週2回の練習を続けたが交<br>替で休みを取って密を避け<br>た。<br><br>【課題】<br>マウスガードをつけての練<br>習に未使用者があった。            | 達成度：概ね達成<br><br>【成果】<br>チラシに、コロナ禍の稽古<br>についての記載もあり、練習<br>場の環境整備や練習方法を<br>工夫して稽古に励んだ様子<br>が伺えた。<br><br>【課題】<br>マウスガードをつけての<br>練習を徹底するのが理想的。   |
| 「アート」が育む・<br>「アート」を育む<br>～人づくり～ | 後継者の育<br>成       | 指導者の育成<br>今回より若手に団長、演出<br>を担ってもらおう                                      | 達成度：達成<br><br>【成果】<br>今回、団長を交替し新人で<br>はあるが、すべての権限を持<br>ってもらった。最終的なチェ<br>ックは会長が確認。                                | 達成度：概ね達成<br><br>【成果】<br>今回より若手の団長に替<br>わり、団内の新陳代謝が行わ<br>れた。アンケートにも称賛の<br>声が溢れており、新たな雰<br>囲気を生み出す事が出来た。<br>前団長が会長として最終<br>的なチェックを行い、新体制<br>を整える努力があった。  |



|                          |                    |  |   |  |
|--------------------------|--------------------|--|---|--|
|                          |                    |  |   | <p><b>【課題】</b><br/> 団長と会長の役割分担の明確化が望まれる。チェック表を作成するなど具体的な記載が評価の判断となる。目標の明示が不十分ではないか。</p>  |
|                          |                    | 子どもたちの鑑賞者増<br>18歳以下の子どもの料金を500円に抑え、大人も1,000円で親子での鑑賞者を増やす | 達成度：達成<br><b>【成果】</b><br>親子での鑑賞者が多く見受けられた。前日のゲネに招待客を入れたがそこでも子どもが多かった。(観客の40%が18歳以下) | 達成度：概ね達成<br><b>【成果】</b><br>アンケートの年齢を見ると、20代未満と30～40代の保護者世代が多かった。ファミリーミュージカルの雰囲気となり、和やかな客席となった。<br>招待客を前日のゲネに招く企画に、子ども達が多かったことも評価出来る。<br><br><b>【課題】</b><br>親子の鑑賞者を増やす方法については、入場料金を抑える以外の目標設定も望まれる。 |
| 「アート」<br>で元気に<br>～地域づくり～ | 鳥取県のミュージカルの魅力をアピール | 広報媒体の充実<br>テレビ、ラジオ、新聞、フリーペーパー、ホームページを利用したPRに予算を確保        | 達成度：概ね達成<br><b>【成果】</b><br>ラジオ告知後、チケット購入者が急増し、ホールでのチケット販売数が劇団史上初(4か所のホールで360枚)      | 達成度：概ね達成<br><b>【成果】</b><br>チケット販売PRに加えて地元ケーブルテレビで終日過去の公演の記録を流すなど、あらゆる方法で広報が出来ていた。<br>ラジオ広告後にチケット購入者が増えたこと、ホールのチケット販売数が劇団史上でも数字が高かったことから判断すると、PR効果が十分あった。   |
|                          |                    |  | <b>【課題】</b><br>一部、広告が20万円かかった割に目立たなかった。   | <b>【課題】</b><br>ラジオ以外の媒体の効果はどうだったのか。費用対効果を検証し、SNSの活用等を含め、PR予算の再検討が望まれる。   |

|    |   |   |   |
|----|---|---|---|
|    | ミュージカル連盟の存在をPR<br>県内のミュージカル団体の紹介をホワイエでパネル展示 | 達成度：概ね達成<br><br>【成果】<br>全ての媒体の最初にミュージカル連盟の文字を使用。<br><br>【課題】<br>テレビ広告で連盟の文字は入っていたが、ナレーションは秒数の関係で入らなかった。 | 達成度：一部達成<br><br>【成果】<br>県内ミュージカル団体を紹介するパネル展示の実施は出来ていた。<br><br>【課題】<br>パネル展示をすることで、どのような効果を狙うのか、具体的な目標設定が必要。パネル展示について、アンケートで問うこともできる。<br>観客数の多さと密を避けるため、ホワイエで関心を持ってパネル展示を見ている人は少なかったように感じた。より良い方法の検討を望む。 |
| 総括 |   | (14/18) ≒ 77.8%   | (10/18) ≒ 55.6%   |

## 【定量目標・実績】

|                | 目標     | 実績     | (参考) 昨年度実績 |
|----------------|--------|--------|------------|
| ⑩ アンケート回収率 (%) | 50%    | 73.6%  | 45%        |
| ⑪ 観客満足度 (%)    | 99%    | 99.9%  | 90%        |
| ⑫ 入場者数 (名)     | 1,000人 | 1,086人 | 600人       |

## 【自己評価総括】

### ○成果

客席は昼、夜共にほぼ満席状態に見えた。実際は昼558人、夜528人とそれぞれ84.5%、80%だった。(680席-PA20席) 近年、満席になったことがなく、久しぶりの満席であった。

今回はテレビ、ラジオ、新聞の広告宣伝が功を奏し多くの鑑賞者を獲得できた。ポスターも評判を呼んだ。次回から今回のように広報・宣伝活動に力を入れたい。

コロナ禍で一人の感染者も出すことなく事業を終了できたことは一番の成功と言える。練習回数を減らすことなく代役を立てながら何度も通し稽古が出来たことが公演の成功につながった。

### ○課題

練習量が団員の負担感につながらないようにすることが大切。そのためにも練習そのものが楽しいと思える練習環境が必要。休みながらも練習は続けるといったさじ加減がむずかしい。ミュージカル連盟の加盟団体を増やすためには休団中の団体にもサポートが必要。1年間の練習で2回公演は少ないので、別のエリアでの公演も考えたい。

### ○その他事業に関する意見、感想など

今回は若手に権限移譲したためポスターも一新し、前評判も高かった。作品も良く知られていることで、テレビ、ラジオの広告が始まると、一気に各プレイガイドのチケットが動き始めた。保護者もチケットの拡販に努力してくれたおかげで、最後の1週間は売り止めとなった。コロナ禍でなければ満席が達成できていた。指定席にすることも今後考えたい。

## 【委員評価総括】

### ○成果

- ・ 広告、ポスター等、広報活動にかなりの予算をかけられたため、集客に成功した結果、客席はほぼ8割埋まっており、観客の興味、関心が高い公演であったことがうかがえた。
- ・ 出演者達のミュージカル活動への愛情、公演にかける一生懸命さが全面に出ていた公演であった。
- ・ コロナ禍という逆風の中で、事業の実施の決断をされた勇気にまず拍手を送りたい。感染者の報告がなかったことが何よりの成功であった。コロナの恐怖で気持ちが萎縮する中、役者の熱気に満ちあふれた舞台に、感動した観客も多く、会場内はあたたかい雰囲気であった。アンケート回収率、観客満足度、入場者数ともに前年より数字が伸びており、コロナ禍の中で準備も大変なご苦労があったことが想像される中、大健闘であった。
- ・ 県内事業の大きな課題である「若年層の参加」を達成していることが特に評価出来る。親子連れの鑑賞者が多かつ

たことも、次世代育成につながっていくであろう。団員が精いっぱい演技していた舞台をみて、夢をもった若手の今後の活躍に期待したい。こどもを育成するという観点では今後も継続して欲しい。

#### ○課題

- ・コロナ禍の中の公演ということで様々な面で対策の苦労があったと察するが、チラシにもプログラムにも「座席を空ける」とはっきりうたってあった一方で、当日は、満席に近い状態で、来場者に不安を与えた結果になった。
- ・事前にもう少し熟慮して来場者の安全確保を第一に考えた公演にしてほしかった。幸い、感染者が一人も出ることなく終わることができたが、今後とも集客ばかりでなく、この点について配慮しながら公演を行う必要がある。
- ・ミュージカル連盟全体の知名度を上げるため、他団体と一層協力できる態勢を作る取組みを求める。
- ・練習量と質の担保を、いかにコロナ禍の中でクリアしていくかは鳥取県ミュージカル連盟に限らず、県内の各文化団体の課題である。
- ・当分は続くと予想されるコロナ禍の中で、密を避けて練習できる環境の整備がより一層望まれる。練習会場によっては、検温機の有無等について県内施設でバラツキがある。中には、練習に参加する方の情報についての確認を予約のたびに行う丁寧な施設もあり、対応の統一があると主催者の精神的負担も軽減するのではないかと。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・今回の公演はコロナ禍において適切であったかどうか疑問がある。集客数が客席の50%から80%に緩和された時期であったが、今回の公演で満席近くの状態は評価しかねる。公演までの練習時の配慮は素晴らしいが、当日の運営は、主催者側の配慮がもう少しほしかった。
- ・開演1時間前から検温などコロナに対する配慮は適切である。一方で、開演時間は15分延び、途中で休憩、空気の換気なしで終演まで3時間、文化ホールに缶詰となり、身の危険を感じる程であった。飛沫感染を考慮すれば、ステージから3列以上は最小限、席を空け、隣り同士の席を空けるくらいの配慮が必要ではないか。開演が15分延びたのも観客が次々来たための対応だと理解するが、空き席がないので最前列を開放するという対応は、手放して喜べることであろうか。チケット販売数は適切であったか、検証する必要がある。
- ・終演後は、出演者が階段に鈴なりになりお見送りをされていたため、ホールが密の状態にあった。普通の時期なら「頑張ったね」という声もかけたいが、コロナ禍の最中であり、「感染者がでなくてよかったね」という問題とは言えない。
- ・飛沫感染だけではなく接触感染にも配慮が欲しかった。ホールに寄せられた多くのプレゼントや差し入れは、チケットを販売する時に、「今回のコロナ禍における配慮事項としてアナウンスは無かったか。(「コロナ対応として団員、観客皆様の安全安心を最優先するため、団員によるお見送りや、プレゼント・差し入れも今回は会場でのお受け取りはいたしません。」など)
- ・場内案内係が少なく、コロナへの対応(会話は抑えてなど)や空席の案内が不足していたと思う。
- ・今回の公演の運営については、今後の他劇団の公演方法に、良い面や改善すべき点の検証として大いに影響を与える機会となったのではないかと。
- ・パンフレットには、劇団「ゆめ」の過去の公演案内や団員の紹介、コメントなどの記入だけでミュージカル連盟の記載が見受けられなかった。県文連は鳥取県ミュージカル連盟全体の取組として公演を承認しているので、ミュージカル連盟の紹介も少しあってもよいのではないかと。
- ・どの役者さんも演技もダンスも上手で、指導が行き届いていることに驚いた。また、アンケートの結果でも、観客の満足度は高く、出演者の一生懸命さが伝わった好演であったと思う。ただ残念なのは、ステージリハーサルでのチェック不足か、PAの調整が充分ではなく、台詞とBGMとの一部バランスの悪さや、台詞がマイクに通り過ぎて、はっきりと聴こえにくい場面が多々あったように感じた。
- ・ホワイエの展示物、パネルも内容が充実しており、主催者や出演者の舞台への想い、パワーがビシビシと伝わってきた。ただ一方で、全体的にやりたいことを全て詰め込みすぎ、という印象もあり、ホワイエでの展示をもっとすっきりさせ、ポイントを絞ったPR方法を考えるべき、と思った。

(参考)

鳥取県文化芸術事業評価委員会委員名簿（令和2年度事業評価）

| 氏名     | 所属等                     | 備考  |
|--------|-------------------------|-----|
| 石谷 依利子 | 砂丘 YOGA 代表              |     |
| 小椋 博志  | 倉吉室内合奏団、(元)河北中学校長       |     |
| 門脇 明子  | 音楽家                     |     |
| 川口 朋子  | DANCE for REAL 代表       |     |
| 近藤 映子  | 鳥取市文化団体協議会理事、元鳥取女声合唱団団長 |     |
| 佐々木 友輔 | 鳥取大学地域学部附属芸術文化センター講師    | 副会長 |
| 谷口 博教  | 元総務省島根行政評価事務所長          |     |
| 南家 久光  | 米子文学事務所                 | 会長  |
| 野川 貴代子 | 米子市文化協議会                |     |
| 山内 有明  | 元学校法人松柏学院倉吉北高等学校長       |     |

※令和3年4月末時点

## 事業別評価報告書執筆担当一覧

| 番号 | 事業名                                     | 主体                      | 団体名                       | 実施日                            | 実地検証<br>委員数                | 執筆担当          |
|----|---|-------------------------|---------------------------|--------------------------------|----------------------------|---------------|
| 1  | 第18回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とりアート2020 東部地区事業     | 鳥取県総合<br>芸術文化祭<br>実行委員会 | 東部地区企画<br>運営委員会           | 令和2年<br>11月28日(土)<br>～29日(日)   | 5                          | 山内委員<br>佐々木委員 |
| 2  | 第18回鳥取県総合芸術文化祭・<br>とりアート2020 中部地区事業     |                         | 中部地区企画<br>運営委員会           | 令和2年<br>11月7日(土)<br>～8日(日)     | 3                          | 谷口委員<br>山内委員  |
| 3  | 第18回鳥取県総合芸術<br>文化祭・とりアート<br>2020 西部地区事業 |                         | PART1                     | 西部地区企画<br>運営委員会                | 令和2年<br>12月5日(土)<br>～9日(水) | 3             |
|    |   | PART2                   | 令和3年<br>2月23日(火)          |                                |                            |               |
|    |   | PART3                   | 令和3年<br>3月5日(金)<br>～9日(火) |                                |                            |               |
| 4  | 第11回とっとり伝統芸能まつり<br>(無観客ライブ配信)           | 鳥取県                     | 地域づくり推進部<br>文化政策課         | 令和2年<br>8月29日(土)               | 4                          | 佐々木委員<br>谷口委員 |
| 5  | 第64回鳥取県美術展覧会                            |                         |                           | 令和2年<br>9月19日(土)<br>～11月23日(月) | 8                          | 小椋委員<br>南家委員  |
| 6  | 第2回万葉の郷とっとりけん<br>全国高校生短歌大会              |                         |                           | 令和2年<br>12月13日(日)              | 2                          | 南家委員<br>野川委員  |
| 7  | 第6回合同公演ミュージカル<br>「オズの魔法使い」              | 鳥取県文化<br>団体連合会          | 鳥取県ミュージ<br>カル連盟           | 令和2年<br>12月20日(日)              | 3                          | 川口委員<br>門脇委員  |

## 評価委員会の開催状況

| 回数        | 開催日              | 報告・協議内容  |
|-----------|------------------|--|
| 第1回       | 令和2年<br>8月20日(木) | (1) 報告事項<br>評価委員の就任について<br>(2) 協議事項<br>ア 評価委員会の会長・副会長の選任について<br>イ 令和2年度評価方針について<br>ウ 令和2年度評価対象事業について<br>エ 令和2年度評価事業の現地検証・執筆担当について  |
| 第2回<br>※1 | 令和3年<br>3月19日(金) | (1) 協議事項<br>ア 令和2年度評価報告書案について<br>(2) 事業実施者との意見交換<br>ア 評価案「第18回とりアート2020 東部地区事業」について<br>イ 評価案「第18回とりアート2020 中部地区事業」について<br>ウ 評価案「第11回とっとり伝統芸能まつり」について<br>エ 評価案「第64回鳥取県美術展覧会」について<br>オ 評価案「第6回合同公演ミュージカル『オズの魔法使い』」について |
| 第3回<br>※2 | 令和3年<br>6月10日(木) | (1) 報告事項<br>ア 評価委員の退任について<br>(2) 協議事項<br>ア 令和2年度評価報告書案について<br>イ 令和3年度評価方針について  |

※1 評価案「第18回とりアート2020 西部地区事業」及び「第2回万葉の郷とっとりけん全国高校生短歌」については、それぞれイベントの開催時期（PART3：令和3年3月開催）及びアンケート集計期間（動画配信視聴：令和3年1～2月）を考慮し、年度内の事業評価を見送り、別途書面審議とした。

※2 令和2年度評価案について継続審議するため、令和3年度第1回評価委員会と同時開催とした。

## 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

### (目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

### (評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

### (委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

### (委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

- 2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

### (組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

- 2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

### (会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

### (任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任務期間とする。

- 2 委員は、再任されることがある。

### (会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めるときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域づくり推進部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和元年7月24日から施行する。





# 令和2年度鳥取県文化芸術事業評価報告書

令和3年9月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会(事務局:鳥取県地域づくり推進部文化政策課内)

電話:0857-26-7839

ファクシミリ:0857-26-8108